

平成12年度版

# こころの健康センター所報

三重県こころの健康センター  
(精神保健福祉センター)

## はじめに

平成12年度の当センターの活動を所報として総括致しましたので、お届け申し上げます。

併せまして、この度、平成13年4月より、当センター長を拝命致しましたので、皆様に御報告と御挨拶を申し上げます。職責の重さを知り、精神保健福祉の発展とこころの健康の増進に奮励努力致す所存でございますので、何卒、御支援、御協力の程、宜しくお願い申し上げます。

さて、平成12年度は、前年度からの運営要領外新規事業、ストレス対策事業と薬物相談ネットワーク事業も軌道に乗り、従来事業ともども順調に経過致しました。これも皆様方の御支援のたまものとセンター職員一同、感謝申し上げます。

本年度は、さらに、こころのケアネットワークづくり事業を展開、各ライフサイクルに応じたサポートネットワークを構築し、メンタルヘルスケアの拡充を図りたいと考えております。

また、平成14年の市町村移管業務のための技術指導・援助を通じて、地域精神保健福祉のさらなる発展に貢献したいと考えております。

当センター業務全体においても、関連諸機関との調和のとれた連携を通じ、本年度の事業展開を目指してゆく所存です。

今後とも、皆様の御厚誼、御支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

平成13年12月

三重県こころの健康センター

崎 山 忍

# 目 次

## はじめに

I. こころの健康センター概要	1
1. 沿革	1
2. 業務	1
3. 施設の概要	2
4. 組織及び職員	4
II. こころの健康センターの活動	5
1. 企画・立案	5
2. 技術指導・技術援助	7
(1) 保健福祉部（保健所）に対する技術指導・技術援助	9
(2) 市町村に対する技術指導・技術援助	10
(3) 福祉機関に対する技術指導・技術援助	10
(4) 教育機関に対する技術指導・技術援助	11
(5) 医療機関に対する技術指導・技術援助	11
(6) 司法機関に対する技術指導・技術援助	11
(7) 労働・産業機関に対する技術指導・技術援助	12
(8) 各種精神保健福祉団体に対する技術指導・技術援助	12
(9) その他の機関・団体に対する技術指導・技術援助	13
3. 教育研修	15
(1) 精神保健福祉研修	15
(2) 学生実習	18
(3) 社会復帰指導者研修（デイケア）	18
4. 普及啓発	21
(1) センターだより「こころの健康」の発行	21
(2) 所報「平成11年度版こころの健康センター所報」の発行	21
(3) こころのケアガイドブック（改訂版）の作成	21
(4) ホームページの開設	22

(5) メンタルヘルス公開講座「こころ・元気！講座」の開催	22
(6) 講演活動	22
5. 精神保健福祉相談	29
(1) 精神保健福祉相談（こころの健康相談・こころのテレフォン相談）	29
(2) 思春期講座	37
6. 組織育成	41
(1) 家族会・リーダー研修会	41
(2) 精神保健ボランティアの育成	42
(3) 思春期アドバイザー養成講座	42
(4) 断酒会・アルコールネットワーク	44
7. 精神障害者福祉推進事業	45
(1) 精神障害者就労相談	45
(2) 精神障害者自立援助	47
(3) 社会復帰関連施設支援	48
8. ストレス対策事業	49
9. 薬物相談ネットワーク事業	51
Ⅲ. 資料編	53

### 凡 例

統計表や一覧表において、次の通り略号を用いた。

D R … 医師

P S W … 精神科ソーシャルワーカー

P H N … 保健婦

C P … 心理技術者

# I. こころの健康センター概要

1. 沿 革

2. 業 務

3. 施 設 の 概 要

4. 組 織 及 び 職 員

## 1. 沿革

(平成13年4月現在)

三重県こころの健康センター（精神保健福祉センター）は、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律第6条の規定に基づいて設けられた、地域精神保健福祉活動の技術的中枢機関である。

- 昭和61年5月 三重県津庁舎津保健所棟1階（津市桜橋3丁目446-34）に開設され、保健環境部保健予防課の分室としてスタートする。
- 昭和63年10月 三重県久居庁舎（久居市明神町2501-1）の完成に伴い、同1階に移転。
- 平成元年4月 県健康対策課の地域機関として独立（三重県条例第五号）。
- 平成11年4月 診療（投薬）開始（三重県条例第五号の一部改正）。
- 平成11年8月 三重県久居庁舎4階にストレスケア・ルーム増設。

## 2. 業務

当こころの健康センターは、「精神保健福祉センター運営要領」（健医発第57号厚生省公衆衛生局長通知、平成8年1月19日）に基づき、次の業務を行っている。管轄は、県下全域である。

### (1) 企画立案

地域精神保健福祉を推進するため、都道府県の精神保健福祉主管部局及び関係諸機関に対し、専門的立場から、社会復帰の推進方策や、地域における精神保健福祉施策の計画的推進に関する事項等を含め、精神保健福祉に関する提案、意見具中等をする。

### (2) 技術指導及び技術援助

地域精神保健福祉活動を推進するため、保健所、市町村及び関係諸機関に対し、専門的立場から、積極的な技術指導及び技術援助を行う。

### (3) 教育研修

保健所、市町村、福祉事務所、社会復帰施設その他の関係諸機関等で精神保健福祉業務に従事する職員等に、専門的研修等の教育研修を行い、技術的水準の向上を図る。

### (4) 普及啓発

都道府県規模で一般住民に対し精神保健福祉の知識、精神障害についての正しい知識、精神障害者の権利擁護等について普及啓発を行うとともに、保健所及び市町村が行う普及啓発活動に対して専門的立場から協力、指導及び援助を行う。

### (5) 調査研究

地域精神保健福祉活動の推進並びに精神障害者の社会復帰の促進及び自立と社会経済活動への参加の促進等についての調査研究をするとともに、必要な統計及び資料を収集整備し、都道府県、保健所、市町村等が行う精神保健福祉活動が効果的に展開できるよう資料を提供する。

### (6) 精神保健福祉相談

センターは、精神保健及び精神障害者福祉に関する相談及び指導のうち、複雑又は困難なものを

行う。心の健康相談から、精神医療に係る相談、社会復帰相談をはじめ、アルコール、薬物、思春期、痴呆等の特定相談を含め、精神保健福祉全般の相談を実施する。センターは、これらの事例についての相談指導を行うためには、総合的技術センターとしての立場から適切な対応を行うとともに、必要に応じて関係諸機関の協力を求めるものとする。

### (7) 組織育成

地域精神保健福祉の向上を図るためには、地域住民による組織的活動が必要である。このため、センターは、家族会、患者会、社会復帰事業団体など都道府県単位の組織の育成に努めるとともに、保健所、市町村並びに地区単位での組織の活動に協力する。

平成11年4月より、以下の2事業が新たに加わった。

### (8) ストレス対策事業

ストレスを避けて通れない現代社会において、すべてのライフサイクルを通じて、メンタルヘルスが重要課題となっている。一般住民の心の健康を維持向上させ、かつ適応障害などの境界域の心の病を持つ人々への社会的支援体制を確立するため、保健所と一体的な地域におけるメンタルヘルス支援体制をはかる。

### (9) 薬物相談ネットワーク事業

こころの健康センターの薬物相談機能を充実し、それを中核とする薬物相談ネットワークを構築することにより、薬物相談に総合的に対応する体制を整備する。また、相談応需職員の研修を行う。

## 3. 施設の概要

### (1) 所在地

[昭和61年5月1日～昭和63年10月8日]

三重県津市桜橋3丁目446-34 三重県津庁舎津保健所棟1階

[昭和63年10月9日以降]

三重県久居市明神町2501-1 三重県久居庁舎

### (2) 施設の状況

[昭和61年5月1日～昭和63年10月8日]

三重県津庁舎津保健所棟1階 1室 52.9㎡

[昭和63年10月9日以降]

三重県久居庁舎1階

ア 敷地面積(久居庁舎) 11,617.29㎡

イ 建物面積(本館棟) 延床面積 5,484.50㎡

ウ 建物構造(本館棟) 鉄筋コンクリート造4階建、一部5階建

エ 当センター占有面積 723.0㎡

オ 各室面積

事務室(電話相談室、所長室) 106.2㎡ 第1デイルーム 140.4㎡

第1相談室 (脳波、心理検査室)	30.8㎡	第2ダイルーム (和室)	44.8㎡
第2相談室	23.9㎡	陶芸室	11.3㎡
第3相談室 (診察室)	26.6㎡	更衣室、湯沸室	12.0㎡
第4相談室	23.9㎡		
第5相談室	41.3㎡		
図書資料室	37.0㎡	各室面積 計	498.1㎡

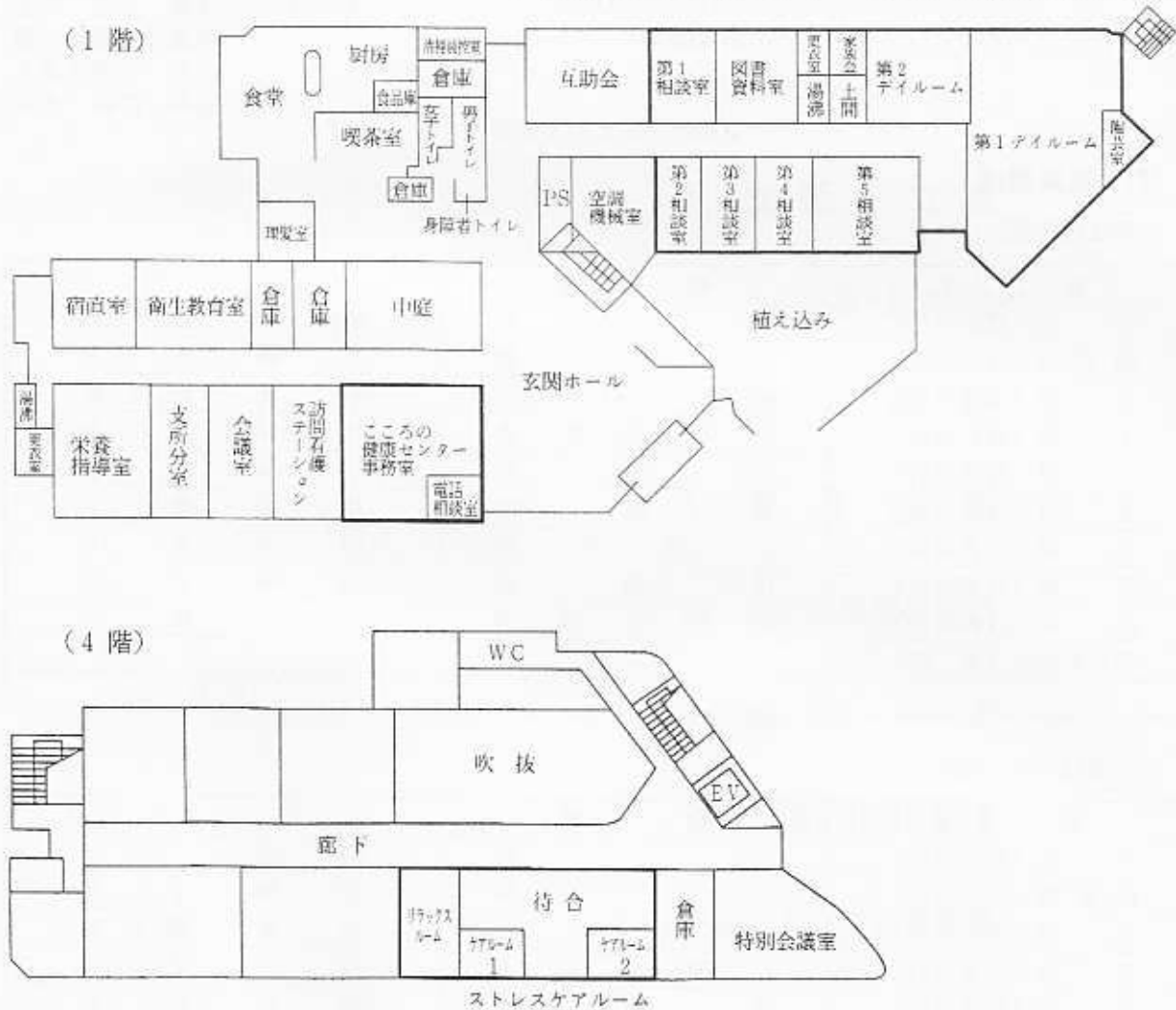
(平成11年8月15日以降増設分)

ストレスケアルーム

- ( ケアルーム 1
- ケアルーム 2
- リラックスメーム

各室面積 計 156.6㎡

三重県こころの健康センター平面図 (平成13年5月現在)

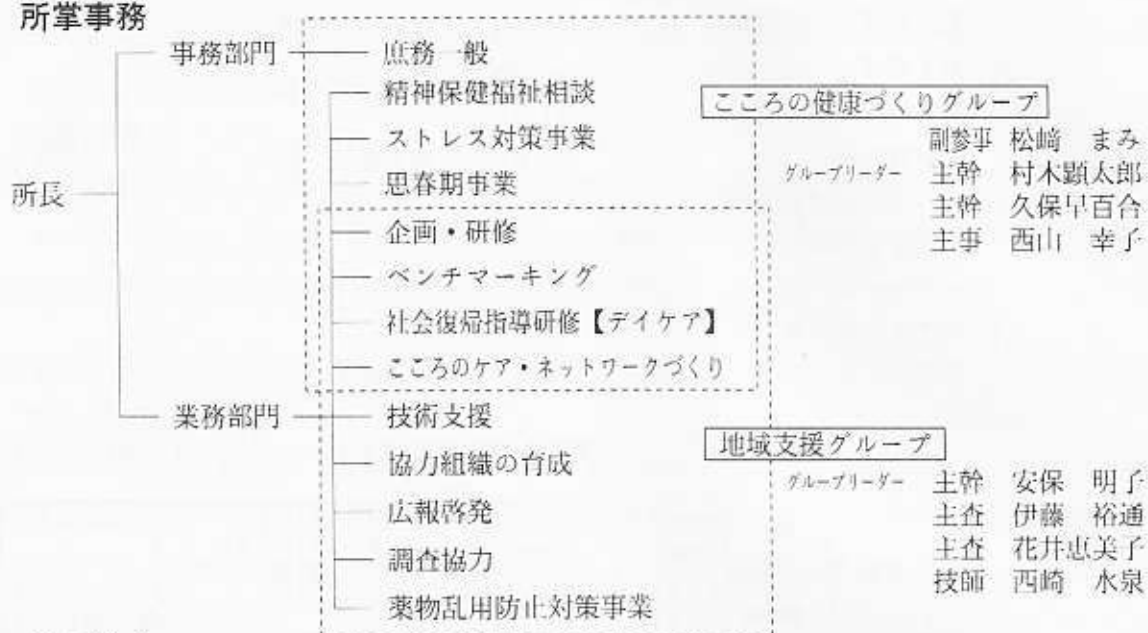




## 4. 組織及び職員

(平成13年4月現在)

### (1) 所掌事務



### (2) 職員構成

[平成12年度]

職 名	職 種	氏 名
所 長 (技術吏員)	医 師	原 田 雅 典
副 参 事 (技術吏員)	医 師	松 崎 ま み
主 幹 (事務吏員)	精神科ソーシャルワーカー	村 木 顕 太 郎
主 幹 (技術吏員)	心 理 技 術 者	久 保 早 百 合
主 幹 (技術吏員)	保 健 婦	安 保 明 子
主 査 (技術吏員)	保 健 婦	藤 田 典 子
主 事 (事務吏員)	一 般 事 務	西 山 幸 子
技 師 (技術吏員)	保 健 婦	西 崎 水 泉
技 師 (技術吏員)	心 理 技 術 者	山 口 裕 子
電話相談員 (嘱 託)		2 名
計		11 名

[平成13年4月現在]

職 名	職 種	氏 名
所 長 (技術吏員)	医 師	崎 山 忍
副 参 事 (技術吏員)	医 師	松 崎 ま み
主 幹 (事務吏員)	精神科ソーシャルワーカー	村 木 顕 太 郎
主 幹 (技術吏員)	心 理 技 術 者	久 保 早 百 合
主 幹 (技術吏員)	保 健 婦	安 保 明 子
主 査 (技術吏員)	心 理 技 術 者	伊 藤 裕 通
主 査 (技術吏員)	保 健 婦	花 井 恵 美 子
主 事 (事務吏員)	一 般 事 務	西 山 幸 子
技 師 (技術吏員)	保 健 婦	西 崎 水 泉
電話相談員 (嘱 託)		2 名
計		11 名

## Ⅱ. こころの健康センターの活動

1. 企画・立案
2. 技術指導・技術援助
3. 教育研修
4. 普及啓発
5. 精神保健福祉相談
6. 組織育成
7. 精神障害者福祉推進事業
8. ストレス対策事業
9. 薬物相談ネットワーク事業

1. 企 画 ・ 立 案

## 企画・立案

改正精神保健福祉法の基本的な方向性は、1. 地域に密着した地域保健福祉施策の充実、2. 精神障害者の社会復帰施策の推進、3. 精神障害者の人権に配慮した保健福祉サービスの確保である。

今後は、市町村を中心とする福祉施策の体制整備が障害者の社会復帰、参加推進の根幹となることから、3年間の準備期間を設け、体制整備の強化を図っているところである。

センターにおいて、平成11年度から、精神保健福祉担当者のワーキンググループを設置し、各保健福祉部における精神保健福祉業務の現状と課題、市町村の現状について、情報交換し、それに沿って、この準備を進めている。

### 事業内容

#### 1. 市町村精神保健福祉担当所管関係者研修

- ・講演 テーマ 「精神保健福祉法改正と市町村の役割」  
講 師 「こころの健康センター所長」  
テーマ 「当事者の立場から関係者に望むこと」  
講 師 「精神医療サバイバー&保健福祉コンシューマー 広田 和子 氏」
- ・市町村実践報告「飯高町、大台町」
- ・啓発劇 「松阪の城下で」  
松阪保健福祉部、南勢志摩保健福祉部と共催
- ・講演 テーマ 「精神保健福祉法改正と市町村の役割」  
講 師 「こころの健康センター所長」  
テーマ 「みんなが住みよいまちづくり」  
講 師 「全家連 中井 和代 氏」  
桑名、四日市、鈴鹿保健福祉部と共催
- ・講演 テーマ 精神保健福祉法の一部改正と市町村への委譲  
講 師 「こころの健康センター主幹」  
テーマ 「事務手続きと相談」  
講 師 「保健福祉部職員」  
紀南保健福祉部と共催

参加者数 224人

#### 2. 市町村保健婦協議会研修会

- ・テーマ 「精神保健福祉法改正に伴う市町村保健婦（士）のかかわり」  
演題 「精神保健福祉法委譲に伴う市町村の役割」  
講 師 「こころの健康センター 所長」

演題 「精神保健福祉法委譲に伴う保健婦（士）の役割」

講師 「こころの健康センター 主幹」

参加者 43人

3. 保健福祉部精神保健福祉担当者会議

演題 平成12年度 精神保健福祉業務の現状と課題

平成13年度の事業について

4. 地域精神保健福祉マニュアル策定のためのワーキンググループ会議

## 2. 技術指導・技術援助

- (1) 保健福祉部（保健所）に対する技術指導・技術援助
- (2) 市町村に対する技術指導・技術援助
- (3) 福祉機関に対する技術指導・技術援助
- (4) 教育機関に対する技術指導・技術援助
- (5) 医療機関に対する技術指導・技術援助
- (6) 司法機関に対する技術指導・技術援助
- (7) 労働・産業機関に対する技術指導・技術援助
- (8) 各種精神保健福祉団体に対する技術指導・技術援助
- (9) その他の機関・団体に対する技術指導・技術援助

## 技術指導・技術援助

地域精神保健福祉活動を推進するために、関係機関に対して、専門的立場から情報提供や助言、講師派遣、コンサルテーション等の技術指導援助を行っている。

平成12年度における関係機関への技術指導援助の状況は、表1に示すとおりで、総回数は713件、前年の93.6%である。

関係機関別には図1に示すとおりで、1. 保健所、2. 教育機関、行政関係、3. 市町村、4. その他の順になっている。

経年的にみた関係機関への技術指導援助実績は、表2に示すとおりである。

技術援助を行った内容は、図2に示すとおりで、1. ケース援助、2. 情報提供、3. 研修・研究会の順となっている。

表1 平成12年度 関係機関への技術指導援助

関係機関	実施回数	参加人数	技術指導援助内容										職種別指導援助回数									
			企画助言	情報提供	ケース援助	事例検討会	デイケア	研究会	研修会	連絡調整	委員会会議	行政指導	調査研究	その他	DR(A)	DR(B)	PSW	CP(A)	PHN(A)	PHN(B)	PHN(C)	CP(B)
保健所	156	797	18	21	72	2	5	21	2	5				2	18	11	4	17	69	16	6	15
福祉機関	58	351		12	23			21	1	1				5	4	6	32	6	1	1	3	
医療機関	38	40	2	15	11			2	1	2		1	4	16	3	1	6	4	4	1	3	
行政機関	99	862	34	15	4	5	2	22	6	4	5		2	64	10	2	10	6	2	1	4	
教育機関	102	259	4	18	36	9	19	6	4	4	2			18	3	2	56	15	1	2	5	
市町村	86	780	7	23	25	6		23	2					5	6	7	20	25	9	8	6	
労働機関	15	29		6	5			1		1		1	1	4	1		8		2			
司法機関	43	128		5	21	1		10	4	2				1	12	2	20	2	1	1	4	
精神保健団体	21	152	1	8	6			4	1				1	1	1	1	4	11	1	1	1	
学生教育実習	15	113	1	10									4	3		1	5	6				
その他	80	503	5	32	6	1		9	1	7		14	5	32	4	8	9	9	3	4	10	
計	713	4,014	72	173	209	24	26	119	22	26	7	16	19	167	55	34	187	153	40	25	51	

電話相談員  
1

表2 関係機関への技術指導援助実績（年度別）

区分	平成4年度	平成5年度	平成6年度	平成7年度	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
保健所	195	203	119	270	345	242	224	150	156
行政機関	84	113	72	103	129	164	167	131	99
市町村	26	21	32	37	51	71	83	79	86
医療機関	95	107	46	60	49	36	46	57	38
福祉	48	67	43	31	63	43	57	54	58
教育	78	69	80	106	148	151	170	127	102
労働	26	38	10	22	7	5	18	13	15
司法	5	2	0	2	3	4	24	26	43
各種精神保健団体	18	23	22	31	20	55	32	41	21
学生教育・実習	32	31	22	9	5	7	8	9	15
その他	27	22	4	30	45	53	67	75	80
合計	634	696	530	701	765	831	896	762	713

図1 平成12年度 関係機関への技術指導援助

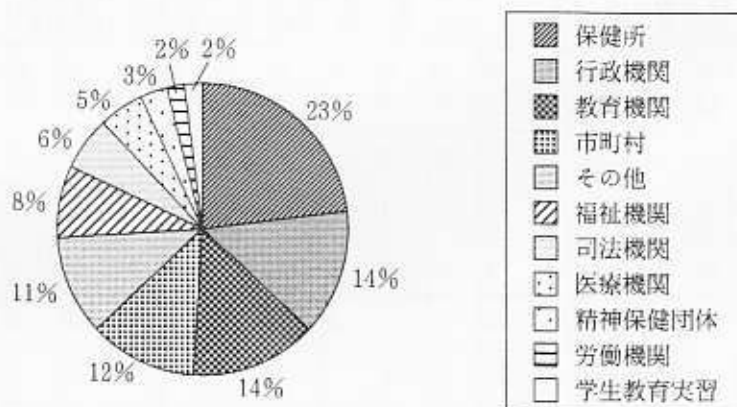
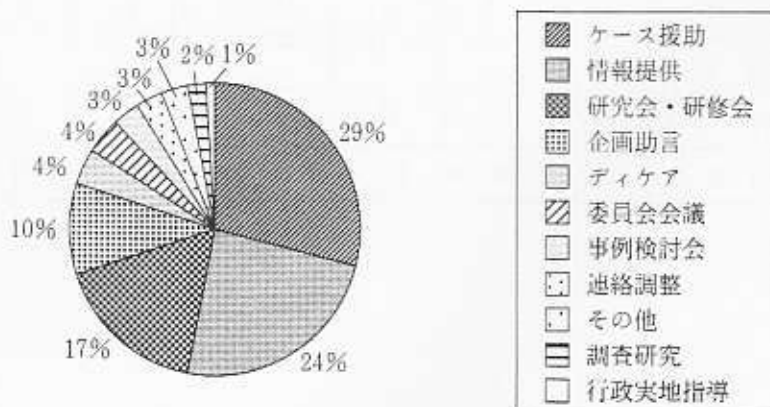


図2 技術指導援助内容





### (1) 保健福祉部（保健所）に対する技術指導・技術援助

地域精神保健の第一線を担う保健所の技術指導援助はセンターの開設以来、重点的に進めているもので、数年来、全体の約20%を占めている。

主な技術指導・援助の内容は、①ケース援助、②研修・研究会、情報提供、③企画助言となっている。

殊に、ケース援助が、前年の約3倍となっており、全体の50%を占めている。

このことから、ケアの補完性がない体制の中、困難事例の対応に苦慮している現状がうかがわれる。

保健所への技術指導の内容を図に、各保健所の技術指導・技術援助実施状況を表3に示した。

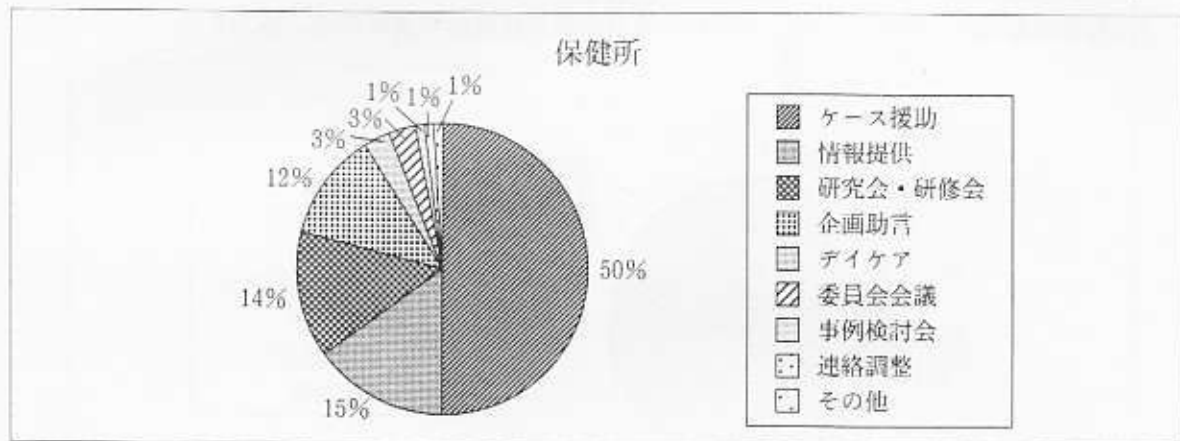


表3 平成12年度 保健福祉部技術指導援助実施状況

保健所 保健福祉部	実施回数 (回)	参加人数 (人)	技術指導援助内容 (回)										
			企画助言	情報提供	ケース援助	事例検討会	デイケア	研修会 研究会	連絡調整	委員会 会議	行政実 施指導	調査 研究	その他
桑名	6	54		3	1			1		1			
四日市	17	108	2	2	10			2		1			
鈴鹿	23	75	3	6	12								2
津	12	124		1	4		2	4		1			
久居支所	10	57	2		7					1			
松阪	17	34	4	5	7	1							
南勢志摩	25	67	3	4	15		1	1	1				
志摩支所	5	27	1		2			1	1				
伊賀	7	72	1	1	1	1	1	2					
紀北	21	73	1	3	10			6		1			
紀南	9	45		3	3			3					
ブロック	4	61	1	1			1	1					
合計	156	797	18	29	72	2	5	21	2	5			2

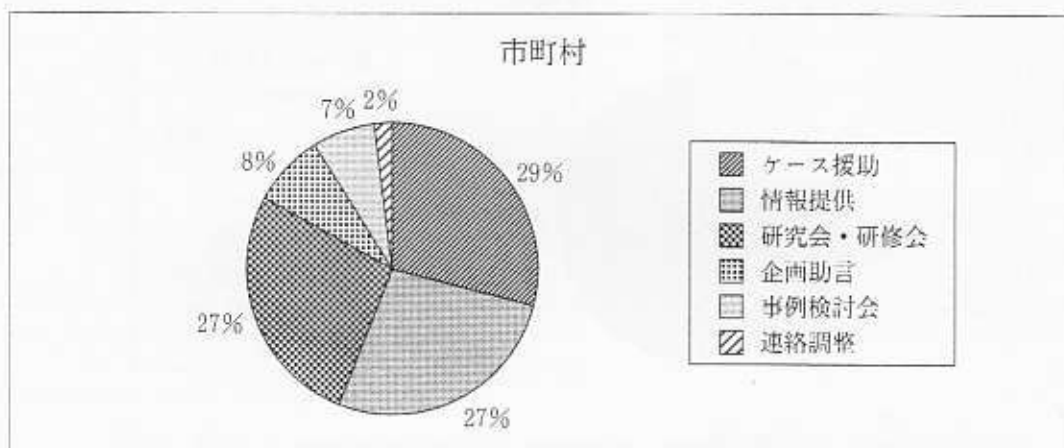
## (2) 市町村に対する技術指導・技術援助

市町村への技術指導援助は、平成8年度から年々増加している。

主な技術指導・技術援助の内容は、①ケース援助、②情報提供、③研究・研修会である。ケース援助は、市町村保健婦からの要請によるもので、分裂病、痴呆、人格障害により、地域で問題を起こしたケースの対応に係る相談である。

平成14年度に、精神障害者の在宅福祉サービスの一部が市町村に移管されることで、この援助ニーズはますます増大が予測されるが、市町村、保健福祉部、センターのスムーズな連携が必要と考える。

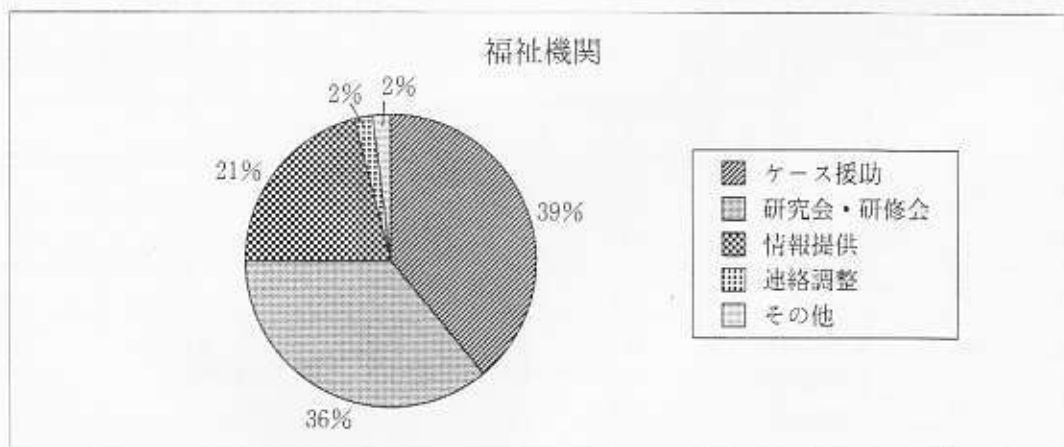
情報提供の内容は、法律改正に関するもの、精神疾患に関するものが主な内容である。研究、研修会は精神保健福祉法一部改正に伴う市町村の業務に係る研修への講師派遣、協力である。



## (3) 福祉機関に対する技術指導・技術援助

技術指導・援助を実施した先は、社会福祉協議会、福祉事務所、高齢者保健・福祉施設、児童福祉施設等で、①ケース援助、②研究会・研修、③情報提供が主な内容である。

援助したケースの内容は、痴呆、精神分裂病、薬物依存への対応、研修は、ホームヘルパー、ボランティア等の精神疾患、理解の為の研修会への講師派遣である。

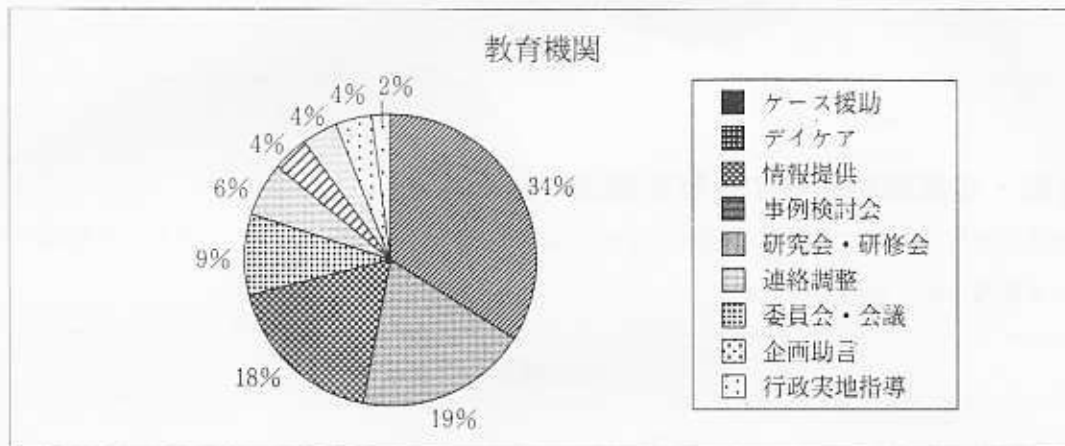


#### (4) 教育機関に対する技術指導・技術援助

教育機関からの技術指導・援助の要望は、平成7年度から平成10年度までは急激に増加、ここ2年間はやや減少傾向であるが、技術指導・援助全体の約15%を占め、保健所に次いで2番目に多い。

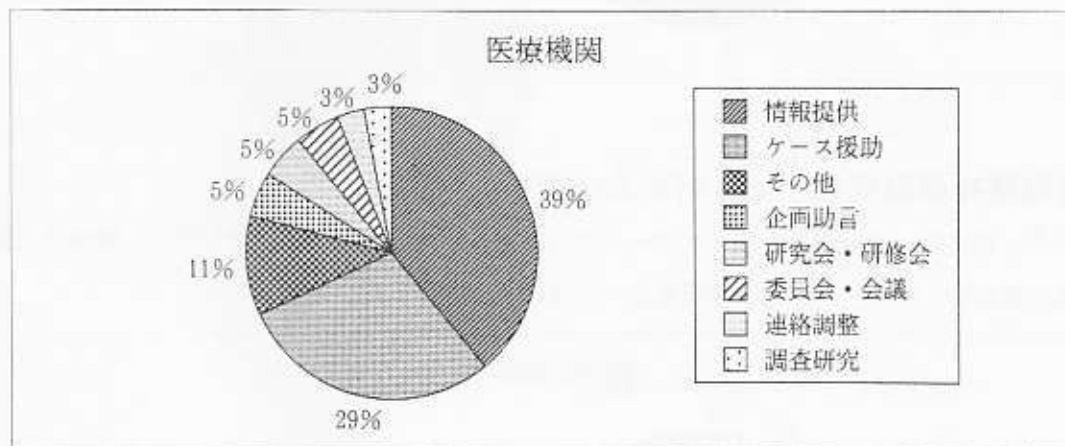
ひきこもり、学習障害、摂食障害、その他の不適応状態のケースが増加し、それに伴う①ケース援助、②研究会・研修会、③情報提供が主な援助内容である。

また、このことに対応するため、教育研究所、教育委員会、学校が開催する事例検討会、学校カウンセリング研修会への講師派遣、情報提供が増加している。



#### (5) 医療機関に対する技術指導・技術援助

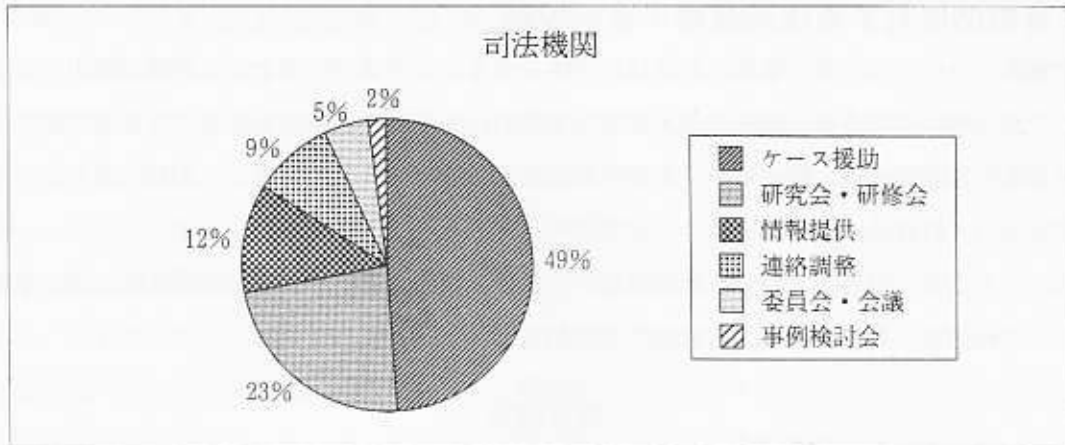
医療機関への技術指導・援助は①情報提供、②ケース援助、③その他で、法律、研修、社会資源に関する紹介が主な内容である。



#### (6) 司法機関に対する技術指導・技術援助

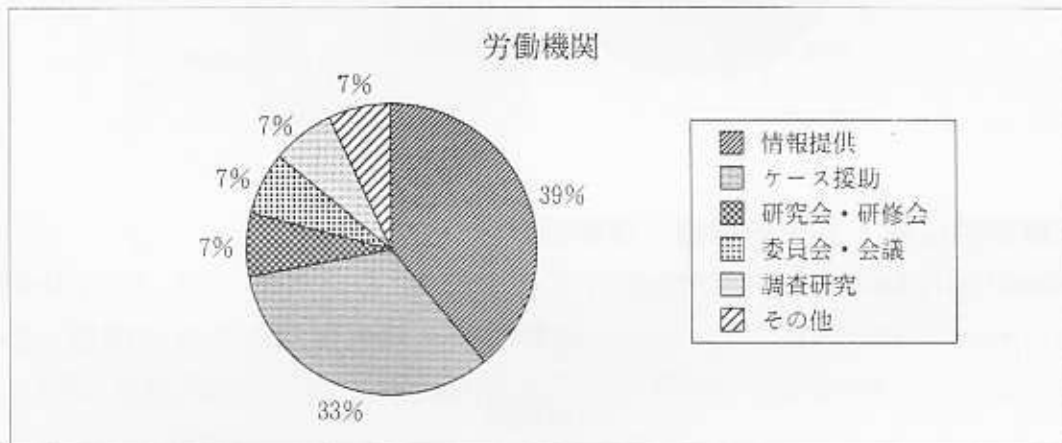
技術指導・援助を実施した機関は、警察署、県警、家庭裁判所等で、その件数は昨年度の約2倍になっており、特に①被害者対応に係るケース援助の占める割合が増加している。

次いで、②研修・研究会、③情報提供となっている。研修は、被害者カウンセリングへの講師派遣がその主な内容である。



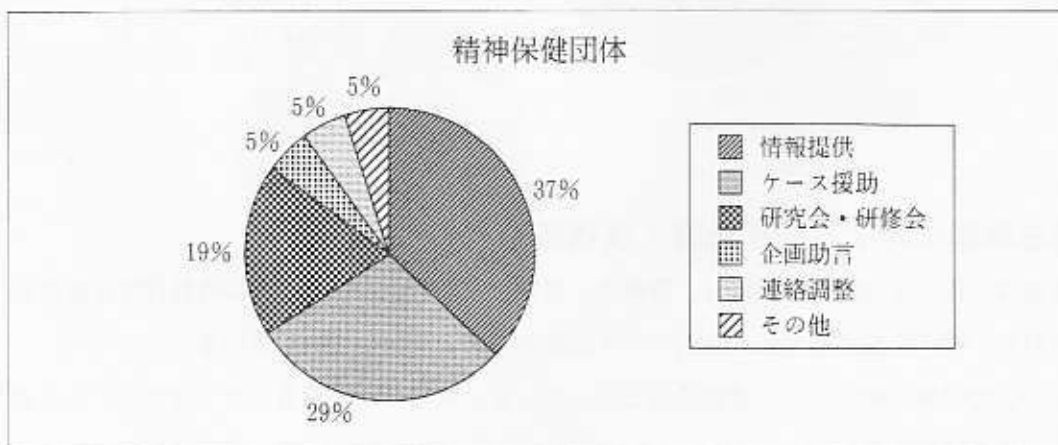
(7) 労働・産業機関に対する技術指導・技術援助

技術援助を行ったのは、企業の健康管理室がほとんどで、内容は、①ケース援助、②職場のメンタルヘルス推進に係る情報提供である。



(8) 各種精神保健福祉団体に対する技術指導・技術援助

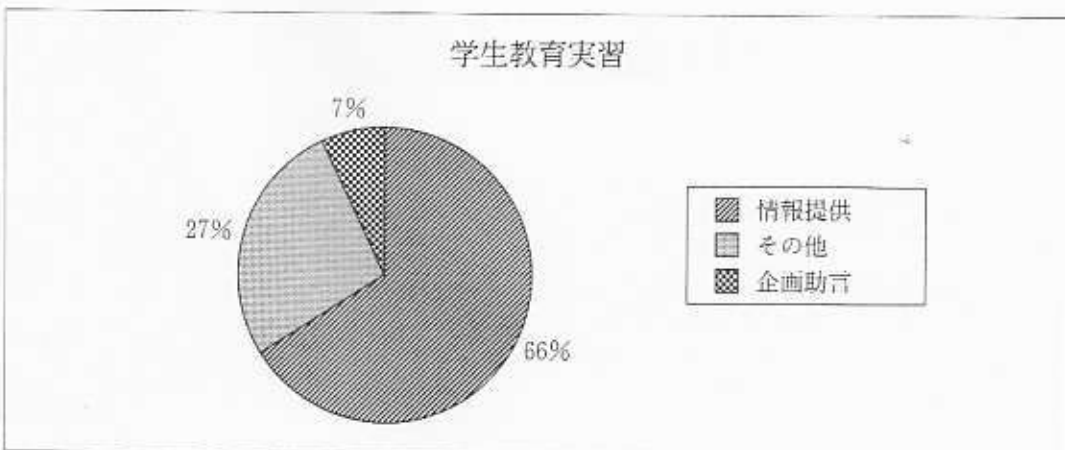
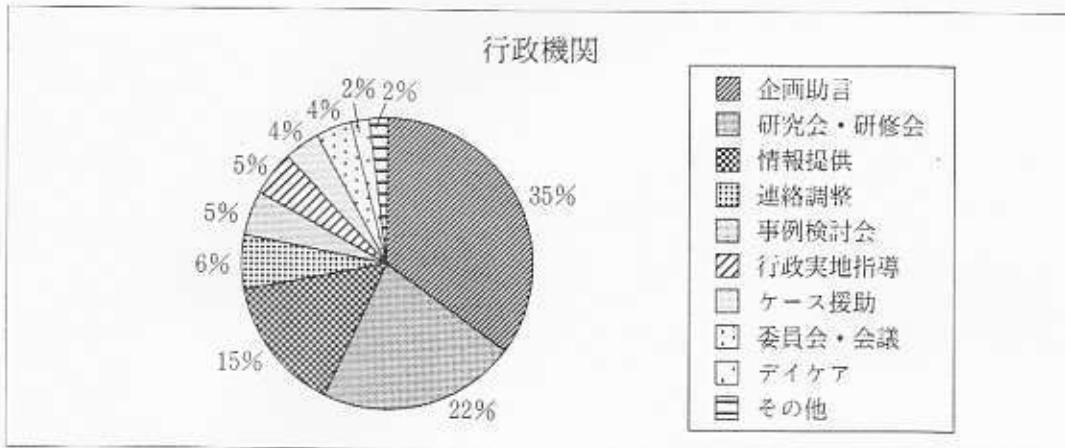
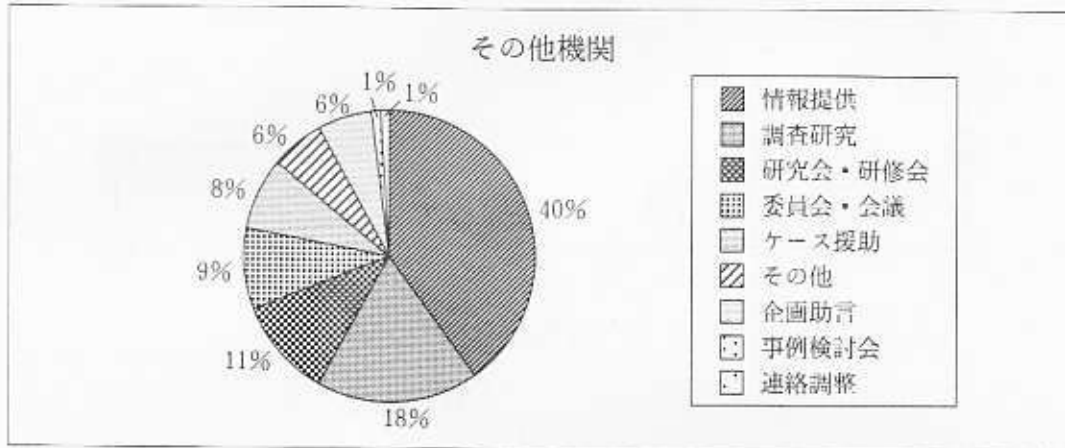
家族会、作業所、地域生活支援センター、専門職種の団体、ダルク等に対して、①地域社会資源に関する情報提供、②ケース援助、③研修会への講師派遣を行った。



(9) その他の機関・団体に対する技術指導・技術援助

その他の機関に対する技術指導は、平成7年以降、年々増加し、今年度は、地方自治センター、労働文化センター、産業保健センター、自治労、市民活動センター、自治研等からメンタルヘルスの推進のための依頼が主である。

又、全国精神保健福祉センターから、法施行後の、センターのあり方「組織、体制」に関する調査、問い合わせ等が多かった。



### 3. 教 育 研 修

- (1) 精神保健福祉研修
- (2) 学生実習
- (3) 社会復帰指導者研修（デイケア）

# 教 育 研 修

## (1) 精神保健福祉研修

当センターの研修は、全下県域において精神保健福祉活動を推進する専門機関を対象として実施している。県内における精神保健福祉の向上を図る総合的な技術の中核機関としての立場から、保健福祉関係以外の関連諸機関をも対象とした研修を行っている。

また、研修の場をとおして、関係機関の連携を深め、地域精神保健福祉活動が円滑に進められる様に願っている。少しずつではあるが、この研修会を核として強まってきている。

今年度は、関係者の質の高い知識、技術の習得を目指し受講者定員を定めて実施した。

教育研修、見学、実習等の実施状況は、表1のとおりである。

表1 平成12年度教育研修実施実績

教育研修名	実施日	受講対象	受講者数
新任精神保健福祉担当者研修会	平成12年5月29日	県保健福祉部、市町村の保健・福祉関係者	78
老人精神保健福祉研修会	平成12年6月24日	保健、福祉、医療、その他関係者	105
児童青年精神保健福祉研修会	平成12年7月19日	県保健福祉部、市町村、教育、司法、その他関係者	176
思春期関連専門研修会	平成12年8月1日	県保健福祉部、市町村、教育、司法、その他関係者	153
精神保健福祉事例検討会（教育）	平成12年8月18日	教育	52
精神保健福祉専門研修会	平成12年9月26日 10月17日 10月24日	県保健福祉部、市町村、医療等の精神保健福祉相談担当者	82 56 85
地域精神保健福祉研修会	平成13年2月27日	県保健福祉部、市町村、教育、司法、その他関係者	82
社会復帰指導者研修会	平成12年4月～ 平成12年12月 (4回)	市町村	7

計13回 876名

### ① 新任精神保健福祉担当者研修会

精神保健福祉についての概要を理解し、地域における精神保健福祉活動の推進を図った。

日 程	内 容
平成12年5月29日 9:40～16:00	講義「センター事業の概要」 こころの健康センター 主幹 村 木 顕太郎 「精神保健福祉行政のあらまし」 県障害保健福祉課 主幹 榎 本 英 典 「精神保健福祉のあらまし」 こころの健康センター 所長 原 田 雅 典 「相談の受け方、進め方」 こころの健康センター 主幹 久 保 早百合 「精神障害・精神疾患への理解と対応」 こころの健康センター 副参事 松 崎 ま み 「地域精神保健福祉活動の動き（保健所・市町村の役割）」 こころの健康センター 主幹 安 保 明 子

### ② 老人精神保健福祉研修会

老人を取り巻く環境にも変化が起こり、社会や職場からの引退、それに伴って社会的地位の喪失、収入の減少、対人関係の狭小化、家庭内での中心的地位の喪失、配偶者との死別、疾病などが生じやすい。このように心身の変化の影響を受け、老人の心理は不安、孤独、抑鬱に傾きやすく、心理的危機の時期でもある。

このような時期にある老人の心理的危機について理解をする機会とする。

日 程	内 容
平成12年6月24日 15:00～17:00	講演 座長 いのうえ心身クリニック 院長 井 上 桂 「リエゾン活動でみる痴呆・せん妄・お年寄り」 鈴鹿中央総合病院精神科 医長 川喜田 昌 彦 特別講演 座長 三重大学医学部精神神経科学教室 教授 岡 崎 祐 士 「新潟県東頸城郡松之山町における老人自殺予防活動」 ……うつ病をてがかりに…… 新潟大学医学部精神医学教室 高 橋 邦 明

### ③ 児童（青年）精神保健福祉研修会

今、子どもの中に起こっているいじめ、非行、不登校、自殺、家庭内暴力、引きこもりの問題や「トラウマ」について考え、適切な援助ができるように考える。

日 程	内 容
平成12年7月19日 13:30～15:30	講演「トラウマと心のケア」 大阪大学大学院 助教授 西 澤 哲



#### ④ 思春期関連専門研修会

思春期の子どもを取り巻く状況は、学校・家庭だけでは対応できないほど深刻なものとなっており、社会全体の病理としてとらえて対応していかなければ改善されないと思われる。

このような状況にある思春期の子どもに対する関係者がよい援助ができるように、知識の向上をはかる。

日 程	内 容
平成12年8月1日 10:30~15:30	講義「今時の青少年の心の動きと理解」 愛知県立大学 講師（臨床心理士）堀 尾 良 弘 「思春期の精神病理—境界例と自己愛—」 名古屋工業大学保健管理センター 教授（精神科医）近 藤 三 男

#### ⑤ 精神保健福祉事例検討会（教育）

不登校をとおして現代の中、高校生のもつ心の問題を知り学校保健に於ける精神保健福祉活動のあり方について考える。

日 程	内 容
平成12年8月18日 13:30~16:00	事例名 「中学女子の不登校児」 事例提供者 亀山市教育研究所 若 林 喜美代 助言者 しみずカウンセリング 清 水 敏 子

#### ⑥ 精神保健福祉専門研修会

日 程	内 容
平成12年9月26日 13:00~16:00	講義「青年のひきこもり」 山梨県精神保健福祉センター 所長 近 藤 直 司
10月17日 13:30~15:30	講義「心理教育的アプローチについて」 国立精神・神経センター 精神保健研究所 社会復帰部長 伊 藤 順一郎
10月24日 10:00~12:00	講義「これからの市町村における精神保健の取り組み」 新潟県精神保健福祉センター所長 後 藤 雅 博

#### ⑦ 地域精神保健福祉研修会

近年、「引きこもり」の問題が社会的にも注目を浴び関心が高まっている。

このような人たちの心のあり方について、知識を学び実践においてどのような支援が必要か考える。

## ⑧ その他

センターで主催する教育研修については、別表の通りであるが、関係機関が実施する専門的な研修について、講師派遣の依頼があった。(別表)

### 教育研修 講師派遣分

教育研修名	実施回数	受講者数
三重大学医学部	2	180
聖十字福祉専門学校	1	80

計 3回 260名

## (2) 学生実習

当センターで実習を実施したのは下記の通りである。

受講者名	実施回数	受講者数
三重大学医学部学生施設体験実習	3	18

## (3) 社会復帰指導者研修（デイケア）

保健所における社会復帰相談事業にかかわる職員の技術向上を図るため、さまざまな複雑困難な事例を対象に、技術的方法、処置、援助方法等を実習、理論的研修を通じて学び、今後の精神保健業務に幅広く対応できる職員の養成を図ることを目的とし、平成元年より実施している。昨年より、市町村職員も対象とし、又、学生等の実習の場としても活用されている。平成12年度の実施回数は4回、受講者数は7名である。

### 《精神障害者集団活動（デイケア）》

社会復帰指導者研修会の実習の場として、精神障害者集団活動（デイケア）を平成元年7月より実施している。実施要領は下記のとおりである。

#### ● 目 的

在宅精神障害者に対し、個別、集団活動を通じて対人関係の改善、社会的習慣の確立、就労意欲の向上など、社会生活の自立を図る。

#### ● 対 象

センター来所者及び保健所、病院などから紹介のあった者で、本人及び保護義務者の希望する者の中から、次によってセンターが決定する。

1. 精神障害の回復期にあたって、社会復帰をめざしている者。
2. 自宅より通所が可能な者。

3. 年齢15歳以上で通所可能な者。
  4. 定員は25人とする。
- 実施日時  
毎週月曜日、午前9時30分～午後3時までとする。
  - 期 間  
期間は1年とする。ただし、通所期間を更新する場合は、1年毎に継続申込書を提出する。
  - 実施場所  
原則として、こころの健康センター内で行う。
  - 費 用  
参加費は無料。  
ただし交通費及び昼食代、材料費、特別活動に要する費用は本人負担とする。
  - 指 導 者  
原則として、センターの職員をもって行うが、内容によっては外来講師及び一般協力者の参加を得て行う。
  - 主な活動内容
    1. 集団活動  
プログラムの内容は、創作、スポーツ、料理、話し合い、野外活動等メンバーの話し合いにより決定する。
    2. 個別相談  
定期的に個別相談と随時家庭訪問を行う。
    3. 会 議
      - ・スタッフミーティング 毎週月曜日（午後3時30分～5時）
      - ・通所決定会議（随時）
 【申し込み→DC見学、インテーク面接（家族同伴）→申込書提出→通所決定会議→結果通知】
    4. 通所申込書、同意書  
参加にあたり本人、家族より「通所申込書」・「同意書」（様式1・2）を得る。
    5. 記 録
      - ・デイケア業務日誌を作成する。
      - ・個人の活動については「個人参加記録」に記入する。
  - 平成12年度実施状況
    1. 年間実施回数 42回（週1回）
    2. 年間参加者数 延人数 439人  
実人数 29人
    3. 平均1回当り参加者数 10.5人

4. 年齢別参加者数

性別 \ 年齢	15~19	20~24	25~29	30~34	35~39	40~44	45~49	50~54	計
男	1	2	1	3	1	0	5	2	15
女	0	0	2	3	3	2	1	3	14
計	1	2	3	6	4	2	6	5	29

5. 保健所管内別参加者数

桑名	鈴鹿	津	久居支所	松阪	伊賀	計
1	5	9	7	5	2	29

## 4. 普 及 啓 発

- (1) センターだより「こころの健康」の発行
- (2) 所報「平成11年度版こころの健康センター所報」の発行
- (3) こころのケアガイドブック（改訂版）の作成
- (4) ホームページの開設
- (5) メンタルヘルス公開講座「こころ・元気！講座」の開催
- (6) 講演活動

# 普及啓発

## (1) センターだより「こころの健康」の発行

当センターでは普及啓発の一環として、センターだより「こころの健康」を年3回発行している。

平成12年度はNo.41～43を発行した。各号の内容は以下の通りである。

なお、センターだよりは平成12年度をもって終了とし、平成13年度以降はホームページ上で情報提供をしていく予定である。

発行年月日	内 容	執 筆 者 (敬 称 略)
<No.41> 平成12年 8月	<特集：薬物依存を考える> 巻頭言「薬物依存問題への取り組み」 「現状と課題～医療の現場では」 「現状と課題～刑務所では」 「現状と課題～薬物相談」の一年をふりかえって 「現状と課題～三重ダルクでは」 ボランティア活動報告記 こころの職人がゆく！ ギャラリー-KOKORO 平成12年度研修会のご案内	県業務食品課 課長 河瀬 勝義 西山クリニック PSW 石上 里美 三重刑務所 刑務官 山下 幸則 三重ダルク 市川 岳仁 こころの健康センター 主幹 安保 明子 なのはな(紀南) 地域生活支援センター アンダンテ 大田 真理
<No.42> 平成12年 12月20日	<特集：みんな見てね♪ こころの健康センターホームページ> トビックス ボランティア活動報告記 こころの職人がゆく！ ギャラリー-KOKORO 最近よく聞く言葉 ご案内	ふわあっと(伊勢) 三重県精神障害者家族会連合会 奥川 泰正
<No.43> 平成13年 3月	<特集：家族のこころ> 巻頭言「家族のこころのサポート」 家族の声 トビックス ボランティア活動報告記 こころの職人がゆく！ ギャラリー-KOKORO 最近よく聞く言葉 ご案内	三重大学教育学部 教授 西川 和夫 ファニーフレンズ(一志) 精神障害者小規模作業所 工房 T&T 永井 正四

## (2) 所報「平成11年度版 こころの健康センター所報」の発行

平成12年7月に1,000部を発行し、関連諸機関へ配布した。

## (3) こころのケアガイドブック(改訂版)の作成

平成10年度に発行した、県内のこころのケアの関係機関の情報をまとめた「こころのケアガイドブック」の改訂版を作成し、関係機関に配布した。

#### (4) ホームページの開設

こころの健康センターホームページを開設した。

アドレス <http://www.pref.mie.jp/KOKOROC/HP/index.htm>

#### (5) メンタルヘルス公開講座「こころ・元気！講座」の開催

近年、社会の複雑化、多様化にともない、ストレスの蓄積などのこころの健康に関する問題は身近なものになってきている。このような中、こころの健康を保持、増進していくには、メンタルヘルスについての知識や情報の普及が不可欠となる。

そこで、メンタルヘルスについての知識と情報を提供し、地域におけるこころの健康の増進を目的として、一般県民を対象にメンタルヘルス公開講座「こころ・元気！講座」を開催した。

	日 時	内 容	参加者数
オープニング イベント	平成12年11月2日(休) 13:30~16:00	講演「ライフサイクルと心の健康」 講師：いのうえ心身クリニック院長 井上 桂（精神科医）	34名
分科会 A こころおだやかに	平成12年11月30日(休) 13:30~16:00	講演「一期一会」 講師：宝積クリニック院長 宝積己矩子（精神科医） ・ミニ茶会でおだやかなひとときを…	16名
分科会 B こころなごやかに	平成12年11月14日(火) 13:30~16:00	・体験学習「こころのリフレッシュ！」 講師：こころの健康センター 久保早百合（臨床心理士）	13名
分科会 C こころさわやかに	平成12年11月16日(休) 13:30~16:00	講義「アロマセラピーでリラックス」 講師：ロコ・エッセンス 井端 博子（認定アロマセラピスト） ・体験「こころやすらぐ香りのスプレーを創ろう」	12名

#### (6) 講演活動

精神保健に関する知識の普及啓発を目的とし、関係諸機関からの要請により実施した。

今年度の講演等の実施回数は61回で、対象者は3,720名であった。講演等の内容は多岐にわたっているが、特に平成12年度はメンタルヘルスをテーマとした講演が増えているのが特色である。

また、派遣先もその領域が広がり、多方面からの要請が増え、今後ますますセンターへの期待が大きくなっていくことが予想される。

	老人精神保健	思春期	薬物	社会復帰促進	メンタルヘルス	産業保健	その他	計
保健所	0	0	0	11	1	0	0	12
	0	0	0	185	15	0	0	200
福祉機関	0	0	0	4	1	0	2	7
	0	0	0	552	103	0	159	814
行政機関	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0
教育機関	0	4	4	0	1	0	1	10
	0	92	1,261	0	50	0	25	1,428
市町村	2	0	0	4	3	1	3	13
	80	0	0	139	70	9	126	424
その他	1	0	1	2	6	4	5	19
	18	0	300	89	143	200	104	854
計	3	4	5	21	12	5	11	61
	98	92	1,561	965	381	209	414	3,720

※上段 回数

下段 人数

## 1. 保健所

実施年月日	名称	内 容	対 象 者	人数	主 催 者	派遣者
H12. 10. 18	精神障害者家族教室	精神障害者の接し方	家族会会員	24	南勢志摩保健福祉部	C P
H12. 11. 6	精神保健ボランティア継続研修会	精神障害者の相談と対応	精神保健ボランティア、保健婦	10	紀北保健福祉部	C P
H12. 4. 27	市町村精神保健福祉担当者研修会	これからの市町村精神保健福祉活動	市町村担当者	10	紀北保健福祉部	P S W
H12. 6. 9	精神保健福祉法の改正に伴う市町村の役割強化に対する支援研修会	精神疾患への理解について	市町村担当者、市町村保健婦	17	紀南保健福祉部	D R
H12. 7. 31	家族会勉強会	あなたの生活、人生を大切にしましょう	家族会会員	18	桑名保健福祉部	C P
H12. 9. 13	精神保健ボランティア継続研修会	これからの精神保健福祉ボランティア活動について	精神保健ボランティア	12	紀北保健福祉部	P H N
H12. 9. 8	ホームヘルパー研修会	精神障害とは	ホームヘルパー、保健婦	22	津保健福祉部	D R



実施年月日	名 称	内 容	対 象 者	人数	主 催 者	派遣者
H12. 9. 8	ホームヘルパー研修会	精神障害とは	ホームヘルパー	20	津保健福祉部	D R
H13. 1. 24	精神障害者家族教室	精神障害とのコミュニケーション	家族、当事者	21	伊賀保健福祉部	D R
H13. 1. 30	精神保健ボランティア研修	三重県の精神保健ボランティア活動について	精神保健ボランティア、保健婦	10	紀南保健福祉部	PHN
H13. 2. 1	精神障害者社会復帰学習会	SSTを体験してみよう	作業所通所生、作業所職員、保健婦等	21	伊賀保健福祉部	PHN
H13. 2. 13	管内精神障害者指導員研修会	精神障害者の心のケアと我がこころのケア	作業所職員、保健婦等	15	津保健福祉部	PSW
計				200		

## 2. 福 祉

実施年月日	名 称	内 容	対 象 者	人数	主 催 者	派遣者
H12. 6. 14	四日市市民生委員・児童委員研修会	身近な心の病と心の相談	四日市市民生委員、児童委員	489	四日市市連合会	D R
H12. 6. 7	地域福祉権利擁護事業	精神障害者の在宅福祉ニーズについて	関係機関職員	27	県社会福祉協議会	PHN
H12. 8. 18	鈴鹿市精神保健福祉ボランティアスクール	地域における精神保健福祉活動について	受講生	21	鈴鹿市社会福祉協議会	PSW
H12. 9. 6	研修会	人格障害者に対する処遇について	福祉事務所職員	9	津市社会福祉事務所	D R
H12. 9. 6	職場研修会	人格障害者に対する処遇について	援護課ケースワーカー	15	津市社会福祉事務所	D R
H13. 3. 29	公立保健所職員研修会	今、幼児のこころを育むために	伊勢市	150	保育所職員	PSW
H13. 3. 9	平成12年度三重県民生委員指導者研修会	今日のメンタルヘルスと精神障害者支援	地区民生委員副会長	103	県民生委員児童委員協議会	D R
計				814		

### 3. 教育

実施年月日	名 称	内 容	対 象 者	人数	主 催 者	派遣者
H12. 10. 21	健康教育講演会	薬物について	生徒、教諭、PTA	446	三雲中学校	PHN
H12. 11. 7	健康教育講演会	心のストレスと依存症	教員、学生	250	高田短期大学	PHN
H12. 12. 5	保護者の会 研修会	不登校の子どもの理解とその接し方	保護者、教諭	26	亀山市教育研究所	C P
H12. 7. 10	保健指導「薬物のおそろしさ」	薬物のおそろしさ	生徒、教師	401	嬉野中学校	PHN
H12. 7. 7	薬物乱用防止教室	薬物依存の実態	生徒、教師	164	香海中学校	PHN
H12. 9. 20	ふれあい講演会	不登校のこどもの理解	保護者	13	桑名市教育委員会	C P
H12. 9. 22	南が丘小学校家庭教育学級	こどもの心を育むために	保護者	25	南が丘小学校	PSW
H13. 1. 23	ふれあい講演会	不登校児の家族の方へ	保護者、教諭	13	桑名市教育委員会	C P
H13. 2. 19	メンタルヘルス集中セミナー	地域におけるメンタルヘルスの現状と動向	大学教官	50	三重大学保健管理センター	D R
H13. 2. 20	久居市学校保健会研修会	子どもの心の発達と課題	養護教諭	40	久居市学校保健会	C P
計				1,428		

### 4. 市町村

実施年月日	名 称	内 容	対 象 者	人数	主 催 者	派遣者
H12. 10. 11	地域健康推進員研修会	中高年女性のこころの健康について	地域健康推進員、保健婦	68	桑名市保健センター	C P
H12. 11. 15	伊勢市職員安全衛生委員会	職場のメンタルヘルス	伊勢市安全衛生委員	17	伊勢市	D R
H12. 11. 7	精神保健福祉講座	精神障害者の理解のために	受講生	16	四日市保健福祉部	C P
H12. 12. 12	職員研修	精神障害者・在宅ケアのポイント	保健婦、ホームヘルパー、在宅介護指導員 他	11	二見町役場	PHN
H12. 5. 30	キラリ☆レディース健康講座	更年期女性のこころの変化について	受講生	39	伊勢市保健センター	D R
H12. 6. 28	青山町民生委員・児童委員研修会	地域における精神障害者に対するかかわり方	民生委員、児童委員、保健婦	22	青山町健康管理センター	D R
H12. 7. 11	小俣町職員安全衛生委員会	職場におけるメンタルヘルスの取り組みについて	役場安全衛生委員	9	小俣町	PHN

実施年月日	名 称	内 容	対 象 者	人数	主 催 者	派遣者
H12. 7. 4	精神保健福祉研修会	精神障害者の今、これから	民生委員、健康づくり推進員	90	紀伊長島町	D R
H12. 8. 1	精神保健講演会	痴呆の症状に応じた接し方と家族を支える制度の紹介	家族、民生委員、健康づくり推進員	40	紀宝町	PHN
H12. 8. 18	乳幼児 健康教室	乳幼児のこころの発達の親のかかわり	受講生	43	伊勢市	D R
H12. 8. 8	メンタルヘルス体験研修会	ストレスケア	伊勢市職員	14	伊勢市	PHN
H12. 9. 11	鈴鹿管内保健婦連絡協議会	揺れ動く思春期～母子保健から考える～	管内保健婦	15	鈴鹿市保健センター	C P
H13. 1. 30	訪問指導担当者研修	老年期のこころの健康を保つために	健康センター訪問指導担当者、保健婦、看護婦等	40	津市保健センター	C P
計				424		

## 5. その他

実施年月日	名 称	内 容	対 象 者	人数	主 催 者	派遣者
H12. 7. 26	みしま会例会	当事者への家族のかかわり方	みしま会会員	19	みしま会	PHN
H12. 10. 26	困りごと相談専科	こころの相談について	警察官	19	県警察本部	D R
H12. 10. 27	女性被害者捜査専科	女性被害者の支援について～カウンセリング技法～	警察官	9	県警察本部	C P
H12. 11. 27	カウンセリング技術専科	サイコドラマを通して事例を考える	警察官	10	県警察本部	C P
H12. 10. 13	健康研修会	職場のメンタルヘルス	各企業衛生担当者	50	近畿健康管理センター	D R
H12. 9. 11	職場学習会	職場のメンタルヘルス	管理職	20	みえきた生協	D R
H13. 2. 22	衛生講演会	職場のメンタルヘルス	所員	50	中部電力松阪営業所	D R
H12. 10. 2	テーマ別介護講座	演習「こころのリフレッシューサイコドラマを通して」	受講生	19	長寿社会推進センター	C P
H12. 11. 16	担い手研修	高齢者とヘルパーの心のケア	ヘルパー	16	在宅福祉ネットワーク三重	PSW
H12. 11. 16	薬物乱用を撲滅する県民総決起集会in伊勢	薬物依存者とその家族等への援助	一般住民	300	県、県薬物乱用対策推進本部南勢志摩地域部会	PHN

実施年月日	名 称	内 容	対 象 者	人数	主 催 者	派遣者
H12. 11. 17	担い手研修	高齢者とヘルパーの心のケア	ヘルパー	18	在宅福祉ネットワーク三重	P S W
H12. 11. 21	県ホームヘルパー協議会伊賀支部研修会	高齢者とのかかわり方	管内ヘルパー	50	県ホームヘルパー協議会 伊賀支部	D R
H12. 11. 28	テーマ別介護講座	演習「こころのリフレッシュ～サイコドラマを通して」	受講生	18	長寿社会推進センター	C P
H12. 4. 25	テーマ別介護講座	演習「こころのリフレッシュ～サイコドラマを通して」	受講生	21	長寿社会推進センター	C P
H12. 6. 29	介護講座	演習「介護する人のこころのケア～こころのリフレッシュ～」	受講生	20	長寿社会推進センター	C P
H12. 7. 14	学習会	愉しく生きる 愉しく老いる	組合員	50	久居市職労女性部	D R
H12. 7. 4	日精看三重県支部研修会	地域における精神保健福祉～活動の現状と課題～	会員	70	日精看三重県支部	P H N
H13. 2. 21	テーマ別介護講座	こころのリフレッシュ～サイコドラマを通して～	講座受講生	15	長寿社会福祉センター	C P
計				774		

## 精神保健福祉相談

### 5. 精神保健福祉相談

- (1) 精神保健福祉相談  
(こころの健康相談・こころのテレフォン相談)
- (2) 思春期講座

# 精神保健福祉相談

## (1) 精神保健福祉相談（こころの健康相談・こころのテレフォン相談）

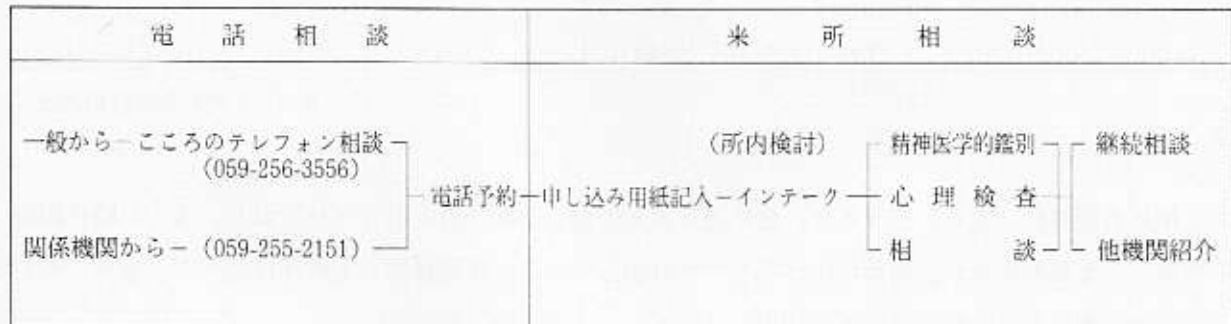
精神保健福祉相談事業は、「こころの健康相談」（来所相談）と「こころのテレフォン相談」（電話相談）に分けられる。

「こころの健康相談」は、思春期・老年期・アルコールのような特定相談も含め、毎週火・木を原則として相談に応じてきた。しかし相談者数の急増にともなって他の曜日にも随時予約をとり対応してきた。平成12年度の相談員は、医師2名（所長、精神科医1名）、保健婦（精神保健相談員2名）3名、精神科ソーシャルワーカー1名、心理技術者2名の計8名であるが、昨年引き続き週1回心理技術者が1名増加している。

「こころのテレフォン相談」は、毎週月～金曜日の午前10時～午後4時まで、専用電話にて相談に応じている。その対応は専任の嘱託相談員（看護職）2名が当たっている。

相談の流れは、図1に示してある。この基本的な考え方は所内でそれぞれの専門職種が互いに検討を行い、それぞれの相談内容に適した方法がとれるようになっている。

図1 相談の流れ



平成12年度における相談の概要は以下のとおりである。

相談件数は、表1のとおりで、前年度と比べると、来所相談が122.5%、電話相談が84.4%で、新規件数は106.2%、104.2%と共に増加している。全体の相談件数は92.9%で減少。新規件数は104.6%でやや増加している。

表1 平成12年度 相談件数

		件数	構成比(%)
こころの健康相談		1,931 ( 258)	29.6
こころのテレフォン相談		4,593 ( 992)	70.4
再掲	思春期	737 ( 239)	11.3
	老年期	374 ( 113)	5.7
	酒害	26 ( 18)	0.4
計		6,524 (1,250)	100.0

※ ( ) 内は新規件数再掲

最近5年間の年度別相談件数の推移は表2のとおりである。来所相談は、昨年度よりストレス相談と薬物相談を始めており、相談件数はさらに増加が著しい。テレフォン相談は、相談専用電話2本、相談員2名の現体制で対応可能な限界になってきており、今年度は、新規件数は増加しているが、延べ件数は減少している。新規相談は時間を要するため、リピーター等の継続相談が減少していると思われる。

表2 精神保健福祉相談件数（年度別）

		平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
こころの健康相談 （来所相談）		955 （ 91）	1,089 （ 170）	1,243 （ 155）	1,576 （ 243）	1,931 （ 258）
こころのテレフォン相談		3,448 （ 675）	4,340 （ 728）	5,187 （ 723）	5,444 （ 952）	4,593 （ 992）
再 掲	思 春 期	395 （ 164）	462 （ 175）	412 （ 183）	690 （ 259）	737 （ 239）
	老 年 期	209 （ 56）	185 （ 52）	198 （ 57）	431 （ 107）	374 （ 113）
	アルコール	13 （ 13）	21 （ 14）	21 （ 16）	23 （ 19）	26 （ 18）
計		4,403 （ 766）	5,429 （ 898）	6,430 （ 878）	7,020 (1,195)	6,524 (1,250)

※（ ）内は新規件数再掲

相談者別件数（表3）をみると、例年通り本人の割合が85.6%と高くなっており、本人の継続相談が多いことがわかるが、昨年と比べるとやや減少している。新規件数でも昨年に比べて、家族、その他の割合が少し高くなっている。

表3 相談者別件数

	こころの健康相談	こころのテレフォン相談	計	構成比（%）
本 人	1,684（ 167）	3,900（ 525）	5,584（ 692）	85.6（ 55.4）
家 族	235（ 86）	615（ 426）	850（ 512）	13.0（ 40.9）
そ の 他	12（ 5）	78（ 41）	90（ 46）	1.4（ 3.7）
計	1,931（ 258）	4,593（ 992）	6,524（1,250）	100.0（100.0）

※（ ）内は新規件数で内数

表4 年代別、性別 相談件数

区 分	こころの健康相談			こころのテレフォン相談			合 計			総相談 件数に 対する 比率(%)
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
0～5			0 ( 0)	3 ( 3)	3 ( 2)	6 ( 5)	3 ( 3)	3 ( 2)	6 ( 5)	0.1
6～12	1 ( 1)		1 ( 1)	19 ( 18)	14 ( 13)	33 ( 31)	20 ( 19)	14 ( 13)	34 ( 32)	0.5
13～15	23 ( 10)	64 ( 7)	87 ( 17)	24 ( 20)	27 ( 21)	51 ( 41)	47 ( 30)	91 ( 28)	138 ( 58)	2.1
16～18	50 ( 15)	65 ( 13)	115 ( 28)	67 ( 41)	35 ( 24)	102 ( 65)	117 ( 56)	100 ( 37)	217 ( 93)	3.3
児童計	74 ( 26)	129 ( 20)	203 ( 46)	113 ( 82)	79 ( 60)	192 ( 142)	187 ( 108)	208 ( 80)	395 ( 188)	6.1
19～22	69 ( 14)	150 ( 9)	219 ( 23)	71 ( 25)	92 ( 40)	163 ( 65)	140 ( 39)	242 ( 49)	382 ( 88)	5.9
23～29	156 ( 25)	106 ( 24)	262 ( 49)	193 ( 87)	207 ( 99)	400 ( 186)	349 ( 112)	313 ( 123)	662 ( 235)	10.1
30～39	220 ( 30)	407 ( 33)	627 ( 63)	582 ( 86)	1,053 ( 164)	1,635 ( 250)	802 ( 116)	1,460 ( 197)	2,262 ( 313)	34.7
40～49	165 ( 16)	161 ( 17)	326 ( 33)	355 ( 41)	1,308 ( 80)	1,663 ( 121)	520 ( 57)	1,469 ( 97)	1,989 ( 154)	30.5
50～59	85 ( 3)	97 ( 18)	182 ( 21)	34 ( 29)	170 ( 54)	204 ( 83)	119 ( 32)	267 ( 72)	386 ( 104)	5.9
60～64	27 ( 5)	6 ( 3)	33 ( 8)	16 ( 13)	42 ( 23)	58 ( 36)	43 ( 18)	48 ( 26)	91 ( 44)	1.4
65～69	5 ( 4)	30 ( 3)	35 ( 7)	7 ( 4)	148 ( 15)	155 ( 19)	12 ( 8)	172 ( 18)	190 ( 26)	2.9
70～	5 ( 4)	38 ( 3)	43 ( 7)	13 ( 9)	37 ( 27)	50 ( 36)	18 ( 13)	75 ( 30)	93 ( 43)	1.4
成人計	732 ( 101)	995 ( 110)	1,727 ( 211)	1,271 ( 294)	3,057 ( 502)	4,328 ( 796)	2,003 ( 395)	4,052 ( 612)	6,055 (1,007)	92.8
不 明	1 ( 1)	0 ( 0)	1 ( 1)	31 ( 20)	42 ( 34)	73 ( 54)	32 ( 21)	42 ( 34)	74 ( 55)	1.1
合 計	807 ( 128)	1,124 ( 130)	1,931 ( 258)	1,415 ( 396)	3,178 ( 596)	4,593 ( 992)	2,222 ( 524)	4,302 ( 726)	6,524 (1,250)	100

※ ( ) 内は新規件数再掲

次に、年代別、性別相談件数(表4)をみると、年代別には来所相談・テレフォン相談ともに30代、40代が多いのは、例年と同様で、30代、40代で、65.2%を占めている。

性別には、来所相談、テレフォン相談共に女性が多く、特にテレフォン相談では、30代、40代の女性が圧倒的に多いが、例年に比べると、差は小さくなっている。今年度の変化としては、10代後半から20代の相談が、テレフォン相談、来所相談共に増加していることである。



表5 保健所管内別相談件数

保健所	こころの健康相談	こころの テレフォン相談	計	構成比(%)
桑名	97 ( 15)	181 ( 87)	278 ( 102)	4.3
四日市	134 ( 32)	201 ( 120)	335 ( 152)	5.2
鈴鹿	219 ( 24)	1,051 ( 105)	1,270 ( 129)	19.5
津	590 ( 74)	1,079 ( 192)	1,669 ( 266)	25.6
久居	383 ( 44)	212 ( 98)	595 ( 132)	9.1
松阪	165 ( 13)	992 ( 92)	1,157 ( 105)	17.7
伊勢	81 ( 23)	247 ( 78)	328 ( 101)	5.0
志摩	16 ( 6)	50 ( 23)	66 ( 29)	1.0
伊賀	191 ( 15)	174 ( 74)	365 ( 89)	5.6
紀北	23 ( 0)	43 ( 12)	66 ( 12)	1.0
紀南	2 ( 2)	14 ( 6)	16 ( 8)	0.2
県外	29 ( 10)	272 ( 52)	301 ( 62)	4.6
不明	1 ( 1)	77 ( 53)	78 ( 54)	1.2
計	1,931 ( 258)	4,593 ( 992)	6,524 (1,250)	100.0

※ ( ) 内は新規件数内数

次に、保健所管内別相談件数(表5)をみると、来所相談では津・久居が多く、この2保健所管内で全体の50.4%を占める。次に鈴鹿・伊賀・松阪と続く。志摩・紀北・紀南は少なく、地理的な要因は大きいと思われる。テレフォン相談は、津・鈴鹿・松阪が、多くなっている。又、県外からの相談者も昨年同様増加している。新規件数をみると、来所相談、テレフォン相談共に、津が多くなっている。他は、志摩・紀北・紀南を除いては、地域差は少ない。

相談内容別件数については、こころのテレフォン相談、来所相談別に、図2、図3に示す。

図2 テレフォン相談内容別件数

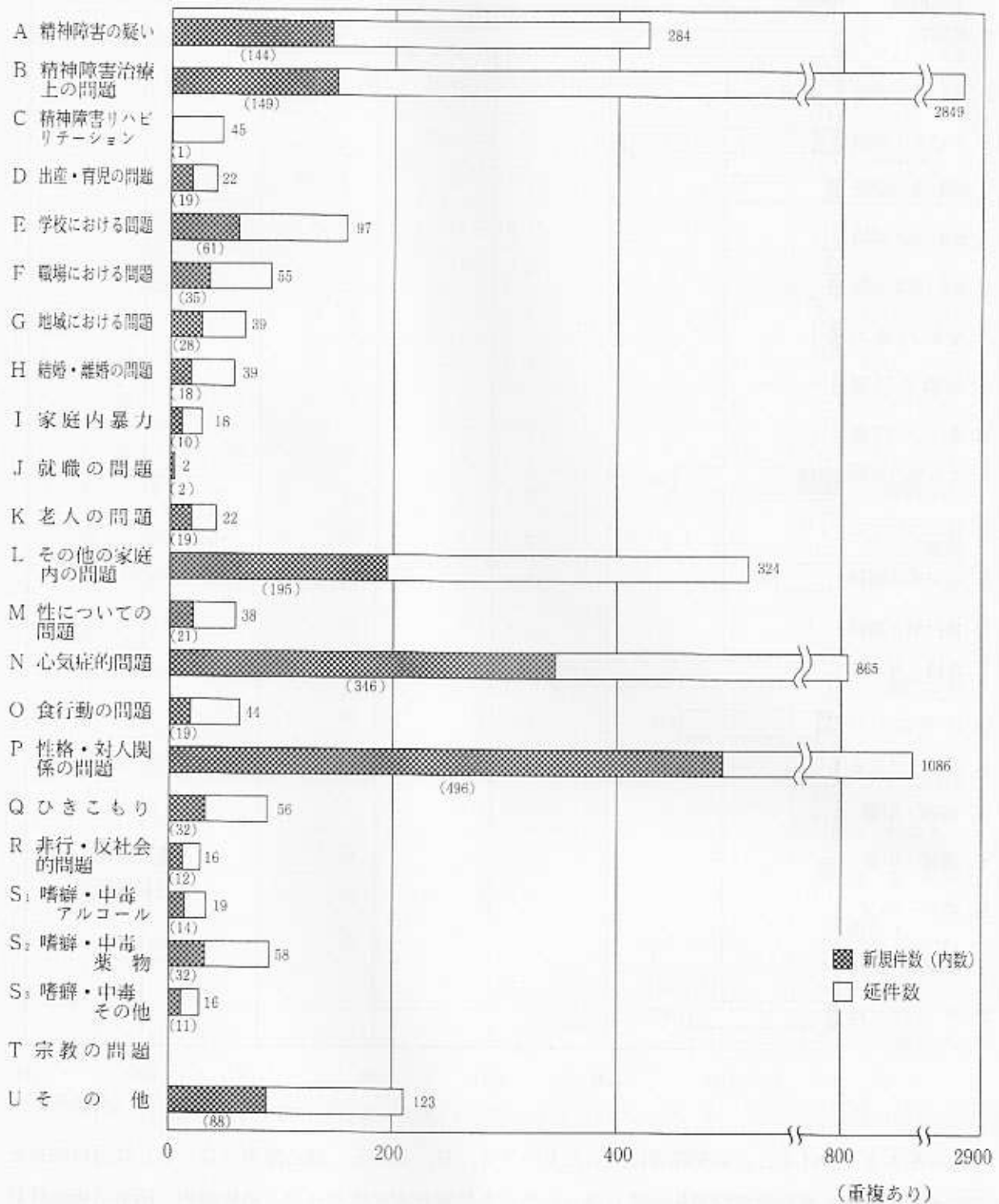
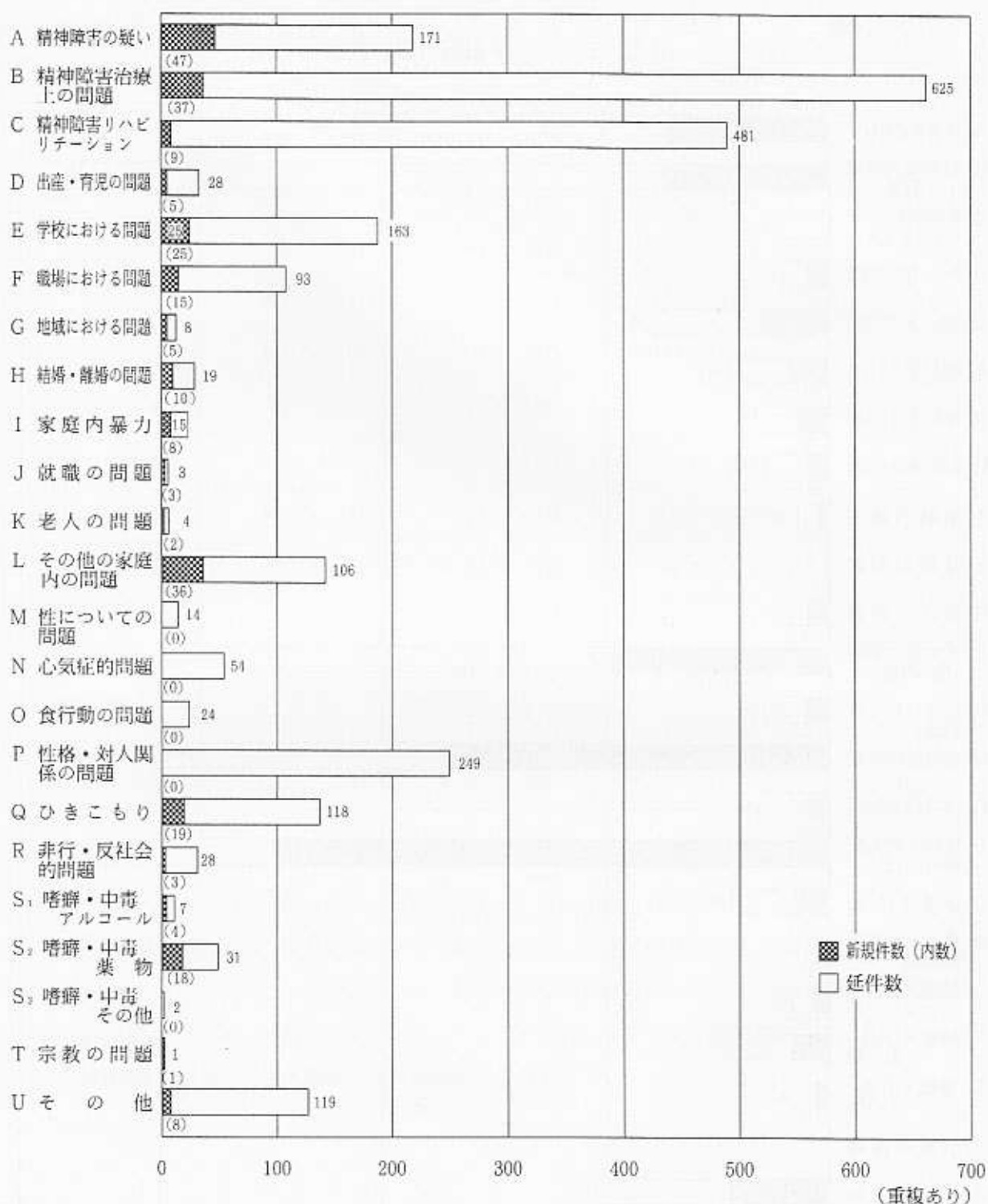


図3 来所相談内容別件数



内容を大きく分けると、精神障害に関するもの（A, B, C）と、適応障害（D～U）に分けることができる。昨年も適応障害の増加が著しかったが、今年度は昨年度に比べ、精神障害に関する相談件数は72.6%、適応障害の相談件数は186.3%で、適応障害の割合がさらに高くなっている。

テレフォン相談で昨年 비해増加の著しい内容は、心気症的問題5.0倍、性格、対人関係の問題2.0倍、嗜癖・中毒1.6倍である。

来所相談では、結婚・離婚の問題3.8倍、ひきこもり2.3倍、性格・対人関係の問題2.2倍である。  
今年度の診療件数は、実人員46名、述べ件数317件である。

<特定専門相談>

思春期相談

表6 思春期内容別相談件数

	来所相談 (%)	テレフォン相談 (%)	計 (%)
A 精神障害の疑い	55 (13.1)	43 (13.6)	98 (13.3)
B 精神障害治療上の問題	77 (18.3)	39 (12.3)	116 (15.7)
C 精神障害リハビリテーション	11 (2.6)	2 (0.6)	13 (1.8)
E 学校における問題	145 (34.4)	68 (21.5)	213 (28.9)
F 職場における問題	1 (0.2)	9 (2.8)	10 (1.4)
G 地域における問題	0	3 (0.9)	3 (0.4)
H 結婚・離婚の問題	0	4 (1.3)	4 (0.5)
I 家庭内暴力	4 (1.0)	4 (1.3)	8 (1.1)
J 就職の問題	1 (0.2)	2 (0.6)	3 (0.4)
L その他の家庭内の問題	2 (0.5)	53 (16.8)	55 (7.5)
M 性についての問題	5 (1.2)	9 (2.8)	14 (1.9)
N 心気症的問題	4 (1.0)	97 (30.7)	101 (13.7)
O 食行動の問題	3 (0.7)	6 (1.9)	9 (1.2)
P 性格・対人関係の問題	98 (23.3)	168 (53.2)	266 (36.1)
Q ひきこもり	34 (8.1)	19 (6.0)	53 (7.2)
R 非行・反社会的問題	5 (1.2)	8 (2.5)	13 (1.8)
S 嗜癖・中毒	4 (1.0)	19 (6.0)	23 (3.1)
U その他	28 (6.7)	23 (7.3)	51 (6.9)
総件数	421 (100.0)	316 (100.0)	737 (100.0)

(重複あり)

思春期は、中学生から大学卒業までの年齢(13歳~22歳)を考えている。表6に思春期の相談内容別件数を示した。

来所相談は、421件あり、来所相談全件数の21.8%を占めている。内容別にみると、学校における問題が最も多く、145件(34.4%)で、次に性格・対人関係の問題、精神障害治療上の問題、精神障害の疑いと続いている。

テレフォン相談は、316件でテレフォン相談全件数の6.9%である。内容別にみると性格、対人関係の

問題、心気症的問題、学校における問題、その他の家庭内の問題と続く。昨年同様来所相談、テレフォン相談共に、適応障害が精神障害に関することより多くなっている。

昨年に比べ、増加が著しいのは、心気症的問題、性格・対人関係の問題である。

#### 老年期相談

表7 老年期内容別相談件数

	来所相談 (%)	テレフォン相談 (%)	計 (%)
A 精神障害の疑い	7 ( 6.3)	6 ( 2.3)	13 ( 3.5)
B 精神障害治療上の問題	65 ( 58.6)	140 ( 53.2)	205 ( 54.8)
C 精神障害リハビリテーション	0	6 ( 2.3)	6 ( 0.3)
F 職場における問題	0	1 ( 0.4)	1 ( 0.3)
G 地域における問題	1 ( 0.9)	2 ( 0.8)	3 ( 0.8)
I 家庭内暴力	2 ( 1.8)	0	2 ( 0.5)
K 老人の問題	3 ( 2.7)	20 ( 7.6)	23 ( 6.1)
L その他の家庭内の問題	10 ( 9.0)	41 ( 15.6)	51 ( 13.6)
M 性についての問題	0	2 ( 0.8)	2 ( 0.5)
N 心気症的問題	2 ( 1.8)	53 ( 20.2)	55 ( 14.7)
O 食行動の問題	0	1 ( 0.4)	1 ( 0.3)
P 性格・対人関係の問題	4 ( 3.6)	74 ( 28.1)	78 ( 20.9)
R 反社会的問題	22 ( 19.8)	0	22 ( 5.9)
S 嗜癖・中毒	3 ( 2.7)	7 ( 2.7)	10 ( 2.7)
U その他	0	14 ( 5.3)	14 ( 3.7)
総件数	111 (100.0)	263 (100.0)	374 (100.0)

(重複あり)

60歳以上の老年期の相談は、今年度は374件であり、全件数の5.7%である。内容別件数は、表7に示してあるように、精神障害治療上の問題が来所相談、テレフォン相談共に多く、次にその他の家庭内の問題、精神障害の疑い、性格・対人関係の問題と続く。老年期では精神障害に関する相談が72.1%と昨年同様多くなっている。

#### アルコール相談

アルコール相談の件数は、今年度は26件で全件数の0.4%である。アルコールに関する相談はアルコール専門病棟をもつ県立病院が隣接市にあることや、各保健所で相談を行っていることにより、例年通り、当センターにもちこまれることは少ないと思われる。

## (2) 思春期講座

思春期は子どもから大人への過渡期であるといわれ、過渡期であるがゆえに精神的な不安定さを生ずる。殊に現代社会のような社会変動が著しい状況においては、思春期が不安定さを特徴とする。そのためさまざまな心の問題が生じやすくなる。

登校拒否、家庭内暴力、非行など、思春期の心の問題が具体的な行動上の問題となって現れ、マスキングを始めとし社会的な関心が高まっている。

また、拒食症、心身症なども増加の傾向にあるが、特にひきこもりの増加が著しい。

よく知られているように社会変動は文化的経済的な急激な変化だけでなく社会の基盤にある構造そのものも変わりつつある。このような時代的な流れの中で、家族の役割も不安定なものにならざるを得ない。

思春期の不安定さを安定化させる役割が家族の中にあると考えた時、家族の役割が不安定になることは、思春期の心の健康を考えていくうえで、重大な危惧を生ずる。

このような視点から今回の思春期講座は、この時期の子供をもつ家族を対象に、5回の連続講座をもち、各分野の立場から「思春期とは」の講義と話し合いをもった。その中で思春期における心の問題と家族の役割を見直すこととした。

### 《平成12年度思春期講座の概要》

#### ● 目 的

思春期は人間の一生の中でも身体的、社会的、心理的にも変動の著しい時期で、この時期は、さまざまな心の揺れを持ち不安定になりやすい。時には、不登校、家庭内暴力、心身症などの思春期における心の問題が生じる。

この講座では、思春期の子どもをもつ家族に対して「思春期とは」の理解を深め、この時期の子どもを支えるための知識・理解を深める。

- 実施主体 三重県こころの健康センター
- 期 間 平成12年11月9日～平成13年3月8日  
毎月一回（第2木曜日） 午後1時30分～午後3時30分
- 場 所 三重県こころの健康センター
- 対 象 者 思春期の子どもをもつ家族で、連続して講座に参加できる方
- 内 容 講義 グループワーク、個別相談（希望者のみ）
- 受 講 料 無料
- 定 員 20名
- 申込方法および期日

別紙申込書により、三重県こころの健康センターへ申し込む  
締切り10月22日（但し定員になり次第締切る）

● 申込先 〒514-1101

久居市明神町2501-1 三重県こころの健康センター

☎ 059-255-2151 FAX 059-255-2835

### 平成12年度 思春期講座プログラム

日 時	内 容 お よ び 講 師
平成12年 11月9日	思春期の心と身体を理解する 宝積クリニック院長（精神科医） 宝 積 己 矩 子
12月14日	思春期の子どもの心性と家族の対応 三重県スクールカウンセラー（臨床心理士） 鶴 飼 真 波
平成13年 1月11日	学校生活の中で思春期の子どもをみる 高田学苑 学校カウンセラー 藤 牧 恵
2月8日	グループワーク 思春期の体験を通して子どもを理解する こころの健康センター 主幹（臨床心理士） 久 保 早 百 合
3月8日	グループワーク 子どもの自立をめぐる こころの健康センター 主幹（臨床心理士） 久 保 早 百 合

### 思春期講座のテーマ別参加者

日 時	内 容	講 師	参加人数
平成12年 11月9日	講義：思春期の心と身体を理解する	宝積クリニック院長 宝 積 己 矩 子	37
12月14日	講義：思春期の子ども心性と家族の対応	県スクール カウンセラー 鶴 飼 真 波	32
平成13年 1月11日	講義：学校生活の中で思春期の子どもをみる	高田学苑 学校カウンセラー 藤 牧 恵	31
2月8日	グループワーク：思春期の体験を通して子どもを理解する	こころの健康センター 久 保 早 百 合	26
2月8日	グループワーク：思春期の子ども自立をめぐる	こころの健康センター 久 保 早 百 合	29

## 思春期講座

### <第1回>

宝積クリニックの宝積院長が、「思春期の心と身体を理解する」というテーマでお話をされた。その中で思春期の問題は子どもだけにあるのではなく、家族の歴史の中にある。

また思春期は心と身体の変化に気づき、“自分らしさ”を求め、直截に行動し、気持ちの表し方は、言葉より動作・行動であらわすことが多い。という内容であった。

### <第2回>

県スクールカウンセラーの鶴飼臨床心理士は、「思春期の子どもの心性と家族の対応」というテーマで話され、心の発達には順序がある。親の役割は、子どもに寄り添って、見守っていくこと、待つことの大切さを話された。

### <第3回>

高田中・高等学校 学校カウンセラーの藤牧先生は、子ども達はなぜ生きづらいのかのなかで、一般的な原因を話された後で、親の役割、学校の役割、社会の役割など述べられた。最後に“心がけたいこと”として「育てる」ということはどういうことか、「育てる」という意識が具体化するのか、もう一度考えて頂きたいと、投げかけられた。

### <第4回>

サイコドラマの形式で、この時期の子どもを理解するために、親自身が思春期の体験をすることにした。思春期の子どもと親自身が自分の思春期を重ね合わせ、感慨深いものがあった。親自身が楽しい気持ちになり、今後子ども達の心を理解するのに役立つという、好意的な評価であった。

### <第5回>

思春期講座を修了している3名のOB会員の方より、体験談を話して頂いた。その後参加者を3グループに分けて自由に討議をする場をもった。OB会員が各グループに加わってすすめられた。講義の内容を振り返りながら子どもの問題について積極的に考えようとする姿勢がうかがわれたり、自分の子どもの様子を話し、どの様に対応すれば良いのか、知恵を出し合うなど和気藹々と進められた。このことはこの講座の意図する、親自身が問題を考え、自らの姿勢を考えるという目的の出発点であると思われる。

またこの講座の終了後、毎月1回開かれている思春期のOB会への参加を希望される方がほとんどであり、今後のOB会の活動が期待される。

## 思春期講座の経過

参加者は41名であった。そのうちの24名が新たに個別相談を希望され、相談継続中が5名であった。参加者を保健福祉部管内別にみると津（久居含）16名、松阪6名、桑名、上野各5名、鈴鹿4名、四日



市2名、伊勢1名、県外2名であった。県外からの参加があったのは、新聞にその活動が紹介されたため、強い希望があったことによる。

子どもの問題行動としては、昨年と同じ傾向であり、不登校、引きこもり、摂食障害、家庭内暴力など、またうつ病、反抗などであり、家族が様々な子どもの問題の対応に苦慮している様子が見られた。



## 6. 組 織 育 成

- (1) 家族会・リーダー研修会
- (2) 精神保健ボランティアの育成
- (3) 思春期アドバイザー養成講座
- (4) 断酒会・アルコールネットワーク

# 組 織 育 成

## (1) 家族会・リーダー研修会

### ① 家族会

〈三重県精神障害者家族会連合会（三家連）〉

三家連は発足以来30年が過ぎようとしている。会員の高齢化や会員の確保などの問題を抱えながらも、地域においては、保健、医療、福祉等関係機関の連携強化に加えて、精神保健ボランティアの支援を得て、精神障害者の社会復帰など様々な活動への取り組みがなされている。

センターは家族会の育成とともに、こうした関係領域拡大と連携の強化を目指して指導援助を行った。

三家連の運営に関する指導助言はもとより、例年開催される、三家連精神保健福祉大会の企画、運営や三家連誌「あゆみ」の編集のほか、三家連理事会への参加、三家連役員と所長の懇親会など行なっている。

〈精神障害者地域家族会〉

県内の地域家族会は現在、病院家族会5ヶ所、地域家族会11ヶ所、その他家族会（社会復帰関連施設等）3ヶ所が活動している。特に地域家族会については、全県下の拠点が網羅されている。しかし、各家族会とも役員の高齢化が進み、会の運営に悩みが生じてきている。

地域家族会への援助は、主に保健所において開催されている各家族会の定例総会への参加や、会独自で計画された研修への講師派遣等行なってきた。

	回（件）数	対象者延人数
家 族 会	13	643

### ② リーダー研修会

保健所を拠点とした地域家族会活動の推進を図るため、平成2年度から表記の研修を開催している。今までは地域家族会を主体としていたが病院家族会、社会復帰関連施設職員も含め、精神障害者社会復帰体制の整備を促進することを目標に行なった。

	研 修 内 容	参加者数および対象者
平成12年 3月6日(火) 14:00~16:00	講演 「精神障害者小規模通所授産施設の制度について」 社会福祉法人さんかく広場 地域生活支援センター 広場そよかぜ施設長 武田 廣一氏	57名 家族会会員、共同作業所所長、共同作業所指導員、社会復帰施設指導員等 保健所、市町村等関係職員

## (2) 精神保健ボランティアの育成

地域の精神保健ボランティアの組織である「三重県精神保健ボランティア連絡協議会」と当センターの精神保健ボランティア教室修了生で組織している「三重てのひら」への運営に対し助言等の支援を行ってきた。

### <三重県精神保健ボランティア連絡協議会>

平成元年から実施している当センターの精神保健ボランティア教室がモデルとなり、順次保健所・社会福祉協議会主催の教室が開催され各地に精神保健ボランティアグループが結成されてきた。

平成10年度に、7つの精神保健ボランティアグループ代表が集まり、相互の情報交換、資質の向上等のため、連絡協議会結成の合意をし、平成11年度に発足した。

#### ○12年度活動内容

- ・運営委員会 6回
- ・全国大会実行委員会 3回
- ・研修会 1回
- ・リーフレットの作成、配布

### <三重てのひら>

平成元年から始まった当センターの精神保健ボランティア教室の修了生により、平成4年度に結成され、県内各地で活動をしている。

#### 精神保健ボランティア支援状況

	回 数	延べ人数
精神保健ボランティア連絡協議会	49	143
そ の 他	20	57
合 計	69	200

## (3) 思春期アドバイザー養成講座

思春期講座が修了後も子どもたちの抱える問題はなかなか解決していかず家族の悩みは続いている。そのような時期を家族が共に乗り越えていこうと、OB会が結成された。家族も、同じ立場で一緒に考えられる場、友を求めていた。心の居場所を求めていた。そのような中から始まったのが、思春期OB会だった。思春期の子どもを理解し、揺れ動く子ども達にどのように対応していくのか、どのようにしたらできるかを会員相互に相談しあっている。これらの知識や経験をいかし、地域で同じような悩みを持つ親に対して良き相談相手となっており、今後も、そのような家族に対して身近に相談にのれるように養成する。

## 《平成12年度 思春期アドバイザー養成講座の概要》

### ● 目 的

思春期の子どもを取りまく状況は、学校・家庭だけでは対応できないほど深刻なものとなっており、社会全体の病理としてとらえていかなければ改善されないと思われる。

このような状況にある思春期の子どもをもつ家族に対して、地域の中で良き支援者となれるようにする。

### ● 実施主体

三重県こころの健康センター

### ● 場 所

三重県久居市明神町2501-1 (☎ 059-255-2151)

県久居庁舎 2F 25会議室

### ● 受講対象者

思春期講座の修了者でアドバイザー養成講座を受講希望する方

### ● 内 容

#### ◎ 講 義

8月1日(火) 10:30~15:30

#### (1) 今時の青少年の心の動きと理解

愛知県立大学 講師(臨床心理士) 堀尾良弘

#### (2) 思春期の精神病理

名古屋工業大学保健管理センター

(精神科医) 近藤三男

#### ◎ グループワーク

毎月第4木曜日 14:00~16:00

## 思春期アドバイザー養成講座の経過

月一回の例会は、平成12年4月から平成13年3月まで、12月を除いて集まりをもった。毎月約8名~9名の参加があり、共に経験談を述べたり、様々な情報を会員に提供するなど、活発に行われた。夏期講習会では、思春期の子どもの特性について学んだ。

また9月には、朝日新聞に思春期OB会(アドバイザー養成講座会員)からのメッセージについて掲載され、思春期の子供を持ちその対応について悩んでいる家族を勇気づけた。

思春期アドバイザー養成講座（グループ別）月別参加者

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	1月	2月	3月
人数	11	6	8	15	3	10	3	3	4	8	7

11回 計 38名

思春期アドバイザー養成講座（講義）

日 時：平成12年8月1日(火) 10:00～15:30

講 義：「今時の青少年の心の動きと理解」

愛知県立大学 講師 堀 尾 良 弘

「思春期の精神病理—境界例と自己愛—」

名古屋工業大学 保健管理センター 教授 近 藤 三 男

計 15名

(4) 断酒会・アルコールネットワーク

三重断酒新生会は昭和47年に結成され、アルコール依存症の自助組織として独自の活動を行なっている。6ブロック15支部で各々例会（月1～4回）を開催している。

アルコールネットワークは、断酒会、医療機関、相談機関等から成る連携組織で啓発活動などを行なっている。

この他県内では、AA（Alcoholics Anonymous）グループ活動も、津市で週1回開催されている。

家族支援としては、「家族例会」が本部・中勢・一志・松阪・上野・南勢ブロックで開催され、それぞれの地域に根ざした活動が行なわれている。

AC（Adult Child）サポートとしては、治療グループと自助グループの両要素をもつ「Wings」が津市で月1回開催し、体験交流や勉強会を行なっている。

センターでは、断酒会との共催による研修やセミナーの開催やアルコールネットワーク活動への協力支援を行っている。

平成12年度の協力支援状況は次のとおりである。

日 時	内 容	参 加 者
平成13年2月4日(水) 13:00～16:00	<北勢ブロック酒害セミナー> テーマ 「否認～気づきへ」 体験発表 医師の講話等	断酒会員および家族 関係職員・一般住民 91名
各ブロック活動への参加等		7回

## 7. 精神障害者福祉推進事業

- (1) 精神障害者就労相談
- (2) 精神障害者自立援助
- (3) 社会復帰関連施設支援

## 精神障害者福祉推進事業

精神保健の施策は、昭和62年及び平成5年の法律改正により、精神障害者の人権に配慮した適正な精神医療の確保や、社会復帰の促進を図るため様々な措置が講じられ、平成5年12月に障害者基本法が成立し精神障害者が基本法の対象として明確に位置づけられ、これまでの保健医療施策に加え、福祉施策の充実を図ることが求められることとなった。

さらに平成7年5月には精神障害者の福祉施策や地域精神保健福祉施策の充実を図ること等を目的に「精神保健法」から「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」に改正され、精神障害者の自立と社会参加のための援助という福祉の要素が位置づけられた。こうした状況を踏まえ、こころの健康センターでは、精神障害者福祉推進事業として1) 精神障害者就労相談、2) 精神障害者自立支援、3) 社会復帰関連施設支援の事業を行ってきた。

### (1) 精神障害者就労相談

昨年度に掲載した就労前の実習体験（仮称…グループアルバイト）は丸2年を経過した。「週1回、2時間程度、できるだけ来客の少ない所で、いつ休むかしない」、という身勝手な条件を理解していただいた「ミスタージョン株式会社」久居店。

職域は店側の配慮で比較的来客の少ない「工作機械、金物売り場」の商品補充作業を考えていただいた。何百種類という品物の中から同じ品物を見つけ同一個所へ掛ける作業、ノルマはないが、来客者から品物の場所を聞かれたり、商品の専門的な用途を聞かれることもしばしばであった。

最初の1年間はジョブコーチとしてセンター職員がバックにいたが、今はメンバーのみで参加している。継続は力なりと言われるとおり、他商品の陳列、値札貼り、金物の切り売りもできるようになってきている。

このアルバイトも平穏に流れてきたのではない。彼らは一度センターに来所してからアルバイトに出かけているが、働きに出かけるふりをして喫茶店に行っていたり、一人のメンバーが休むともう一人も行きづらくなったりというハプニングもおこしてくれている。黙って休むことは相手に迷惑をかけることは彼らも承知の上であり、職員は注意をしながら内心ではさぼることもできるようになった彼らと評価している自分に気づかされる今日この頃である。さて、このアルバイトを今後適当なメンバーが現れたときスムーズに入れるよう普遍化しておく必要性を感じ手引き書を作成した。



### 就労の手引

服 装：来客に不快な印象を与えない服装  
Gパンはだめ。襟付きの綿シャツ  
ひげを剃り整髪をする

仕 事：商品を売場に並べる

時 給：700円（15日ノ通帳に25日振込）

就労時間：毎週金曜日13：00～15：00  
休憩はなし

### アルバイトの手続

1. アルバイト雇用契約書
2. アルバイト採用報告書
3. 通勤手当支給申請書
4. 給与所得者の扶養控除申請書
5. 身上書（履歴書）入院歴などの記入は必要なし。卒業学校、就労歴だけでよい。

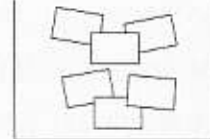
### 実 務

1. 釘、ノコギリ等商品No.2のついた金物類の箱を探す
  2. 商品陳列棚へ移動
- ①小箱の数字が近い物、同じ物を選ぶ
- ②バーコード表示の末尾と同じ商品を確認し展示。



\*客が誤った場所へ商品をかけてあることがありバーコード表札と同一か確認すること。

3. 職員と出会ったら「お疲れさま、こんにちは」と挨拶する。
4. 2階の事務所職員、店長らに挨拶し事務所入り口のタイムカードを



- ①自分のタイムカードを探す
- ②出社のボタンを押し
- ③タイムカードを上から切る
- ④青ランプでOK

この手引き書を作成する中で、デイケアで行っているプログラムの中にも手引き書を作成することで、今まで消極的だったメンバーが取り組めることができることがわかり、「カラオケ操作の手引き」「当番の役割の手引き」「陶芸の手引き」などを作成した。

この手引きは、異動する県職員の身分を考えれば当然作成しておくべきものであり、新しく入ってくる職員の手引き書にもなりうるものである。

平成12年3月31日現在

	回（件）数	対象者延人数
グループアルバイト	48	84

## 《精神障害者就労相談（グループアルバイト…仮称）実施要領》

### ● 目 的

精神障害者にとって現代社会の就労環境は厳しく、また就労できたとしても適応出来ずに失敗体験を繰り返すケースが多い。デイケアや作業所では適応しているケースでも、1人で社会に飛び込む体験はかなりの勇気と自己管理が必要であり、仲間と共に関係者が支え、安心して就労体験が出来る機会を設ける。

また、メンバーが実社会に触れる機会のみならず、このアルバイトを通し雇用主はじめ関係者の理解を得る機会とする。

### ● 対 象

在宅精神障害者で、デイケア、作業所に通所している者。

### ● 実施内容

- ・毎週金曜日 13:00～15:00（状況に応じ16:00まで）
- ・原則として同一のデイケア、作業所に通うメンバー2人以上によるグループアルバイトの形式で実施。
- ・導入時他、必要に応じてジョブコーチとしてセンター職員等が指導する。
- ・アルバイト料は雇用主と協議する。

	回 数	延 べ 人 数
障害者就労相談	30	42

## (2) 精神障害者自立援助

平成4年度より毎週金曜日はデイケアメンバーにフリースペースとしてデイルームを開放している。当初は1、2名の参加であったが平成8年ころより利用が増え当事者会へと発展してきた。

現在、当事者会は月1回定例会を開催しており、メンバーが主体的に活動できるよう情報提供、助言等を行っている。

### フリースペース利用状況

回 数	延べ利用者数	平均参加者数	内 容
47	176	3.7	カラオケ、将棋、雑談

### 当事者会（オレンジハートクラブ）支援状況

回 数	延べ利用者数	平均参加者数	内 容
11	42	3.8	ミーティング、カラオケ、施設見学、食事会、戶外レクリエーション

### (3) 社会復帰関連施設支援

平成12年度に開設された施設は、地域生活支援センター3カ所、福祉ホーム2カ所の計5カ所であった。

	回数	延べ人数
社会復帰関連施設支援	12	100

(再掲)

施設名	回数	延べ人数
わかば共同作業所	1	8
工房T&T	1	12
夢の郷	2	27
かすみ園芸	1	3
愛恵会社会復帰施設 (ひまわり・あさがお・あけ ぼの園・こだま)	1	4
太陽作業所	1	8
ふれあい工房	1	8
ひのきの家作業所	1	13
計	9	83

## 8. ストレス対策事業

# ストレス対策事業

ストレスを避けて通れない現代社会において、すべてのライフサイクルを通じてメンタルヘルスが重要課題となっているなか、社会的支援が急務となっている。

そこで県民ひとりひとりが不安や緊張を経験しながらも著しい不適応な状態に陥ることなく、心の健康を維持向上させ、また、適応障害、心的外傷後ストレス障害など境界域の心の病を持つ人々への社会的支援体制を確立するため、ストレス対策事業を実施する。

## 事業内容

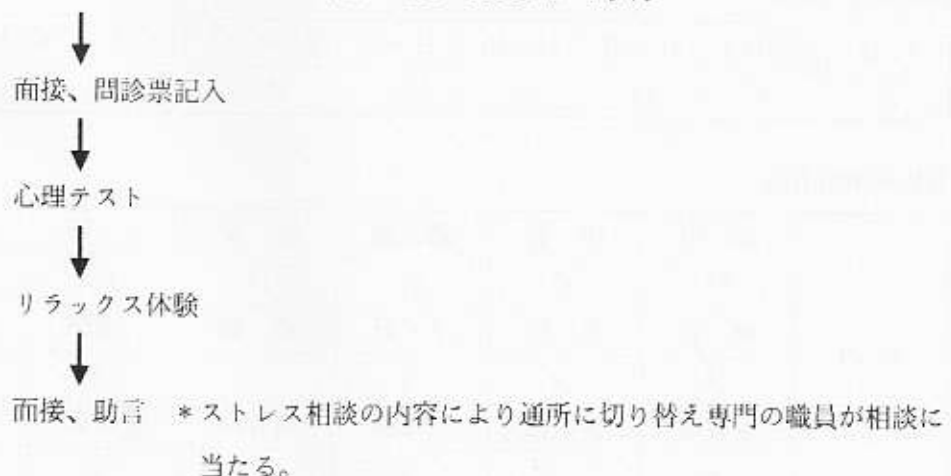
- (1) リラックス体験
- (2) ストレス相談
- (3) 診療（ストレス関連疾患、来所ケースの中での相談の補助的手段として投薬治療の必要なケースに診療を行う）

の3本柱である。

- (1) **リラックス体験**＜実施日時：火・金 10～16時、場所：久居庁舎4階ストレスケア・ルーム、無料＞  
 ボディーソニック（リクライニングの椅子）に横になり、癒しの音楽の低重音がリラックスを導く中、α波の脳波をとりストレス解消のアドバイスをを行う。

	平成11年9月～	平成12年度
対象者	170	171

- (2) **ストレス相談**＜実施日時：水 10～16時、場所：久居庁舎4階ストレスケア・ルーム、無料＞  
 ストレス相談の流れ：ストレスケア・ダイヤル（059-255-0184）にて予約



	平成11年9月～	平成12年度
対象者	39	57

(3) 診療<実施日時：随時、場所：こころの健康センター、診療は有料>

保健診療の出来る体制を開始する。ストレス相談の方以外の来所相談ケースにも対応を開始する。

	平成11年9月～	平成12年度
対象者	203	318

初年度の利用者は日中時間がとりやすい40～50代の女性の利用が多く、更年期の悩み、家族、友人関係での悩みなど幅広い相談が持ち込まれてきた。

2年目には市、町などから職場のメンタルヘルスに関する問い合わせがあり、県内各市町村（要望がどれだけあるかわからず3分の1市町村）へ案内を出したところ、市町村、ホームヘルパー協会、PTA保護者などの6箇所から「メンタルヘルス体験研修会」の参加申し込みをうけた。

今まさに病の人だけでなく、子育てをしている保護者、いじめや不登校児童にかかわる先生、職場で病の人を抱える上司や部下など、当事者にかかわる専門職の人たちがストレスを抱えストレスケアを待ち望んでいる現状が浮きぼりになってきている。

センターはこれらの人すべてに答えられる質的、量的機能はないが、この事業の最終目標は、職場や学校などにおいてメンタルヘルスの出来る職員の養成であり、さらに地域でメンタルヘルス・ケアのできるネットワークへと構築していかなければならない時期にきていると考えている。

\* 参考<平成12年度ストレスケアルーム利用者の状況>

性別

	人数	計
男	53	228
女	175	

新規、再来、継続別件数

新規	再来	継続	合計
199	12	17	228

年齢別来所者数

人数	20歳以下	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	70以上	不明	合計
名	2	19	55	58	57	26	6	5	228

管内別来所者数

	津市	伊勢	鈴鹿	松阪	久居	四日市	合計
管内	83	40	24	14	12	10	228
	桑名	名張	上野	熊野	一志郡	度会郡	
	4	2	1	2	7	14	
	安芸郡	多気郡	三重郡	員弁郡	北牟婁	不明	
	8	2	1	1	1	2	

リラックス体操	ストレス相談	助言指導	カウンセリング
171	57	180	48

## 9. 薬物相談ネットワーク事業



## 薬物相談ネットワーク事業



薬物乱用の広汎化、低年齢化、対応・支援の難しさなど、薬物問題を取り巻く状況は非常に深刻である。

薬物依存症の問題で困っている家族、関係者が薬物依存症について、正しい知識をもち、回復に繋がる対応を学び、孤立した状態から解放されると共に、薬物依存症者自身の回復を動機づけることを目的に以下の事業を実施している。

### 1. 特定相談事業

電話相談 58件

来所相談 25件（実人員16人）

紹介経路	相談来所者		使用薬物	
警察	2人	母	10人	覚醒剤 11人
新聞	2人	父	2人	大麻 1人
ダルク	6人	両親	2人	シンナー 3人
保健所	2人	兄弟	2人	精神安定剤 1人
児童相談所	1人			
人権センター	1人			
インターネット	1人			
不明	1人			

### 2. 家族教室

実施回数 11回 参加述べ人員 32人

内 容

- 1) 講義 薬物依存症の理解、そばにいる私たちにできること
- 2) グループミーティング
- 3) 当事者メッセージ

担 当 者 皇學館大学社会福祉学部 山 野 尚 美 先生  
ダルク、ナラノン、センター職員

### 3. 関係機関職員研修 参加者数 138人

講演 テーマ 「薬物問題における関係機関の役割」

講 師 「宮崎県精神保健福祉センター所長 細 見 潤 先生」

報告・意見交換会「関係機関の現状と課題について」

西山クリニック ソーシャルワーカー 石 上 里 美 氏



三重刑務所	薬物事犯者教育担当者	山下 幸 則 氏
三重ダルク	代表	市 川 岳 仁 氏
こころの健康センター	薬物相談担当者	安 保 明 子 氏

#### 4. 関係機関連絡会議

刑務所に於ける薬物教育プログラムについて

参加者 刑務所、ダルク、こころの健康センター

#### 5. 講師派遣

薬物乱用防止教室 中学校 3校

薬物乱用防止決起集会 4ヶ所

#### 6. 広報啓発

リーフレット作成

マスコミへの啓発

### Ⅲ. 資 料 編

## 三重県こころの健康センター図書目録

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
1	アリエティ分裂病入門	近藤 喬 一 訳	星和書店
2	アルコール依存症	斎藤 学 共編	有斐閣
3	アルコール依存の社会病理	大橋 薫 編	星和書店
4	アルコール症 (J. フォート著)	大森 正英 訳	東京大学出版会
5	異常と正常	秋元 波留夫 著	東京大学出版会
6	遺伝精神医学	坪井 孝幸 著	金剛出版
7	医療ソーシャルワーカー論	児島 美都子 著	ミネルヴァ書房
8	岩波国語辞典	西尾 実 著	岩波書店
9	狼に育てられた子 (J. A. L. ジング著)	中野 善達 訳	福村出版
10	カウンセリングと人間性	河合 隼雄 著	創元社
11	カウンセリングの実際問題	河合 隼雄 著	誠信書房
12	覚醒剤中毒	山下 格 著	金剛出版
13	仮面デプレッションのすべて	筒井 末春 著	新興医学出版社
14	健康と福祉 (厚生行政百問百答)	厚生省 監修	厚生問題研究会
15	現代精神分析 1	小此木 啓吾 著	誠信書房
16	現代精神分析 2	小此木 啓吾 著	誠信書房
17	講座 家族精神医学 1	加藤 正明 共編	弘文堂
18	講座 家族精神医学 2	加藤 正明 共編	弘文堂
19	講座 家族精神医学 3	加藤 正明 共編	弘文堂
20	講座 家族精神医学 4	加藤 正明 共編	弘文堂
21	講座 日本の老人 1 老人の精神医学と心理学	金子 仁郎 共編	垣内出版
22	講座 日本の老人 2 老人の福祉と社会保障	岡村 重雄 共編	垣内出版
23	講座 日本の老人 3 老人と家族の社会学	那須 宗一 共編	垣内出版
24	行動と脳	今村 渡郎 著	東京大学出版会
25	最新児童精神医学	高木 隆郎 監訳	ルガール社
26	自己と他者 (R. D. レイン著)	志貴 春彦 共訳	みすず書房
27	実務衛生行政六法61年版	厚生省 監修	新日本法規
28	児童精神衛生マニュアル	松本 和雄 共著	日本文化科学社
29	児童の発達と行動	加藤 正明 共訳	医学書院

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
30	死にゆく患者と家族への援助	柏木哲夫著	医学書院
31	社会精神医学の実際 1	加藤伸勝編	医学書院
32	社会精神医学の実際 2	佐藤亮三編	医学書院
33	社会精神医学の実際 3	逸見武光編	医学書院
34	社会精神医学の実際 4	加藤伸勝編	医学書院
35	生涯各期の心身症とその周辺疾患	並木正義編	診断と治療社
36	小児メディカルケアシリーズ 6 小児のMBD	上村菊朗共著	医歯薬出版
37	小児メディカルケアシリーズ 7 登校拒否症	若林真一郎著	医歯薬出版
38	小児メディカルケアシリーズ 8 小児のてんかん	福山幸夫著	医歯薬出版
39	小児メディカルケアシリーズ 13 小児の糖尿病	川中美郷著	医歯薬出版
40	小児メディカルケアシリーズ 14 自閉症	村田豊久著	医歯薬出版
41	小児メディカルケアシリーズ 15 小児の心身症	河野友信著	医歯薬出版
42	小児メディカルケアシリーズ 20 夜尿症	三好邦雄著	医歯薬出版
43	職場の精神衛生	春原千秋共編	医学書院
44	事例検討と看護実戦	外口玉子編	看護事例検討会
45	事例検討と患者ケアの展開	外口玉子編	バオバブ社
46	心身の力動的発達		岩崎学術出版社
47	新精神保健法（法令、通知、資料）	厚生省監修	中央法規出版
48	心理療法の実際	河合隼雄編	誠信書房
49	人類遺伝入門	大倉興司著	医学書院
50	睡眠障害	上田英雄編	南江堂
51	睡眠障害	山口成良共著	新興医学出版社
52	ステッドマン医学大辞典	.....	メディカルビュー
53	増補版 精神医学辞典	加藤正明共編	弘文堂
54	精神医学ソーシャルワーク	柏木昭編	岩崎学術出版社
55	精神医学と社会療法	秋元波留夫著	医学書院
56	精神医療の実際	菱山珠夫共編	金原出版
57	精神衛生と法的問題	高宮澄夫共訳	牧野出版
58	精神衛生と保健活動	中澤正夫共編	医学書院
59	精神衛生のための100か条	中沢正夫著	創造出版

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
60	精神衛生法詳解	公衆衛生法規研究会	中央法規出版
61	精神科のソーシャルスキル	アイリーン山口監修	協同医書出版
62	精神科のリハビリテーション	吉川武彦著	医学図書出版
63	精神科のハーフウェイハウス	加藤正明著	星和書店
64	精神科 MOOK 3 覚せい剤・有機溶剤中毒	加藤伸勝著	金原出版
65	精神科 MOOK 4 境界例	保崎秀夫著	金原出版
66	精神科 MOOK 6 思春期の危機	下坂幸三著	金原出版
67	精神科 MOOK 8 老人期痴呆	長谷川和夫著	金原出版
68	精神疾患ケース・スタディ	森温理著	医学書院
69	精神疾患と心理学	神谷美恵子著	みすず書房
70	精神障害者との出会い	加藤伸勝編	医学書院
71	精神障害者のディケア	加藤正明共編	医学書院
72	精神分析用語辞典	村上仁監訳	みすず書房
73	精神分析セミナー I 精神療法の基礎	小此木啓吾共編	岩崎学術出版社
74	精神分析セミナー II 精神分析の治療機序	小此木啓吾共編	岩崎学術出版社
75	精神分析セミナー III フロイトの治療技法論	小此木啓吾共編	岩崎学術出版社
76	精神分析セミナー V 発達とライフサイクルの視点	小此木啓吾共編	岩崎学術出版社
77	精神分裂病の治療と社会復帰	蜂矢英彦著	金剛出版
78	青年期境界例の治療	成田善弘共訳	金剛出版
79	側頭葉てんかん	宇野正威著	星和書店
80	チューリッヒ学派の分裂病論	人見一彦著	金剛出版
81	てんかん診療の実際	福山幸雄監訳	医学書院
82	断酒学	村田忠良著	星和書店
83	地域精神衛生の理論と実際	加藤正明監修	医学書院
84	日本の中高年 1 (上) 中高年健康管理学	簇野脩一編	垣内出版
85	日本の中高年 1 (下) 中高年健康管理学	簇野脩一編	垣内出版
86	日本の中高年 2 中高年女性学	簇野脩一編	垣内出版
87	日本の中高年 3 収穫の世代	袖井孝子編	垣内出版
88	日本の中高年 4 老人のプロセスと精神障害	戸川行男共編	垣内出版
89	日本の中高年 5 中高年にみる生活危機	本村汎共編	垣内出版

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
90	日本の中高年 6 病める老人を地域でみる	前田 信雄 著	垣内出版
91	ニュー セックス セラピー	野末 源一 訳	星和書店
92	脳と心を考える	井上 英二 編	講談社
93	方法としての事例検討	外口 玉子 著	看護協会出版会
94	保健所精神衛生活動のすすめ方	岡上 和雄 共著	牧野出版
95	夫婦家族療法	鈴木 浩二 訳	誠信書房
96	ポウルビィ母子関係入門	作田 勉 訳	星和書店
97	分裂病家族の研究	井村 恒郎 著	みすず書房
98	メンタルヘルス解説辞典	大原 健志郎 編	中央法規出版
99	森田正馬全集 1	森田 正馬 著	白揚社
100	森田正馬全集 2	森田 正馬 著	白揚社
101	森田正馬全集 3	森田 正馬 著	白揚社
102	ユキの日記	笠原 嘉 編	みすず書房
103	病むということ	江畑 啓介 訳	星和書店
104	ライフサイクルからみた女性の心	石川 中共訳	医学書院
105	臨床神経心理学	濱中 淑彦 共訳	文光堂
106	臨床体験をつなぐ事例検討	外口 玉子 編	バオバブ社
107	臨床てんかん学	和田 豊治 著	金原出版
108	老人心理へのアプローチ	長谷川 和夫 共著	医学書院
109	老人精神衛生活動を始める人のため	浜田 晋 著	創造出版
110	老人保健の基本と展開	松崎 俊久 編	医学書院
111	老人ぼけの理解と援助	三宅 貴夫 編	医学書院
112	老年期の精神科臨床	室伏 君士 著	金剛出版
113	老年期の精神障害	長谷川 和夫 著	新興医学出版社
114	老年の精神医学	加藤 伸勝 監訳	医学書院

## 63年度以降購入分

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
1	現代精神医学大系 1 A 精神医学総論 I		中山書店
2	現代精神医学大系 1 B 1 a 精神医学総論 II a 1		中山書店
3	現代精神医学大系 1 B 1 b 精神医学総論 II a 2		中山書店
4	現代精神医学大系 1 B 2 精神医学総論 II b		中山書店
5	現代精神医学大系 1 C 精神医学総論 III		中山書店
6	現代精神医学大系 2 A 精神疾患の成因 I		中山書店
7	現代精神医学大系 2 B 精神疾患の成因 II		中山書店
8	現代精神医学大系 2 C 精神疾患の成因 III		中山書店
9	現代精神医学大系 3 A 精神症状学 I		中山書店
10	現代精神医学大系 3 B 精神症状学 II		中山書店
11	現代精神医学大系 4 A 1 精神科診断学 I a		中山書店
12	現代精神医学大系 4 A 2 精神科診断学 I b		中山書店
13	現代精神医学大系 4 B 精神科診断学 II		中山書店
14	現代精神医学大系 5 A 精神科治療学 I		中山書店
15	現代精神医学大系 5 B 精神科治療学 II		中山書店
16	現代精神医学大系 5 C 精神科治療学 III		中山書店
17	現代精神医学大系 6 A 精神症と心因反応 I		中山書店
18	現代精神医学大系 6 B 精神症と心因反応 II		中山書店
19	現代精神医学大系 8 人格異常、性的異常		中山書店
20	現代精神医学大系 9 A 躁うつ病 I		中山書店
21	現代精神医学大系 9 B 躁うつ病 II		中山書店
22	現代精神医学大系 10 A 1 精神分裂病 I a		中山書店
23	現代精神医学大系 10 A 2 精神分裂病 I b		中山書店
24	現代精神医学大系 10 B 精神分裂病 II		中山書店
25	現代精神医学大系 12 境界例、非定型精神病		中山書店
26	現代精神医学大系 15 A 薬物依存と中毒 I		中山書店
27	現代精神医学大系 15 B 薬物依存と中毒 II		中山書店
28	現代精神医学大系 18 老年精神医学		中山書店
29	現代精神医学大系 23 A 社会精神医学と精神衛生 I		中山書店

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
30	現代精神医学大系 23B 社会精神医学と精神衛生Ⅱ		中山書店
31	現代精神医学大系 23C 社会精神医学と精神衛生Ⅲ		中山書店
32	現代精神医学大系 24 司法精神医学		中山書店
33	現代精神医学大系 25 文化と精神医学		中山書店
34	フロイド著作集1巻、精神分析入門(正統)	懸田克躬・高橋義孝訳	人文書院
35	フロイド著作集2巻、夢判断	高橋義孝訳	人文書院
36	フロイド著作集3巻、文化・芸術論	高橋義孝他訳	人文書院
37	フロイド著作集4巻、日常生活の精神病理学他	懸田克躬他訳	人文書院
38	フロイド著作集5巻、性欲論・症例研究	懸田克躬・高橋義孝他訳	人文書院
39	フロイド著作集6巻、自我論・不安本能論	井村恒郎・小此木啓吾他訳	人文書院
40	フロイド著作集7巻、ヒステリー研究他	懸田克躬・小此木啓吾他訳	人文書院
41	フロイド著作集8巻、書簡集	生松敬三他訳	人文書院
42	フロイド著作集9巻、技法・症例篇	小此木啓吾訳	人文書院
43	フロイド著作集10巻、文学・思想篇Ⅰ	高橋義孝・生松敬三他訳	人文書院
44	フロイド著作集11巻、文学・思想篇Ⅱ	高橋義孝・生松敬三他訳	人文書院
45	臨床脳波学	大熊輝雄	医学書院
46	クレベリンの精神医学1巻 精神分裂病	西丸四方・西方甫夫訳	みすず書房
47	クレベリンの精神医学2巻 躁うつ病とてんかん	西丸四方・西方甫夫訳	みすず書房
48	クレベリンの精神医学3巻 心因性疾患とヒステリー	遠藤みどり訳	みすず書房
49	遠藤四郎睡眠研究論集	遠藤四郎	星和書店
50	分裂病の身体療法	宇野昌人他訳	星和書店
51	躁うつ病の精神病理 1	笠原嘉編	弘文堂
52	躁うつ病の精神病理 2	宮本忠雄編	弘文堂
53	躁うつ病の精神病理 3	飯田真編	弘文堂
54	躁うつ病の精神病理 4	木村敏編	弘文堂
55	躁うつ病の精神病理 5	笠原嘉編	弘文堂
56	精神遅滞児(者)の医療・教育・福祉	櫻井芳郎他訳	岩崎学術出版社
57	岩波講座、子どもの発達と教育1. 子どもの発達と現代社会		岩波書店
58	岩波講座、子どもの発達と教育3. 発達と教育の基礎理論		岩波書店
59	岩波講座、子どもの発達と教育7. 発達の保障と教育		岩波書店



番号	書名	著者又は訳者	出版社名
60	分裂病の精神病理 4	萩野恒一編	東京大学出版会
61	青年の精神病理 1	笠原嘉・清水将之・伊藤克彦編	弘文堂
62	青年の精神病理 2	小此木啓吾編	弘文堂
63	青年の精神病理 3	清水将之・村上靖彦編	弘文堂
64	講座 生活ストレスを考える 1. 生活ストレスとは何か	石原邦雄・山本和郎・坂本弘編	垣内出版
65	講座 生活ストレスを考える 2. 生活環境とストレス	山本和郎編	垣内出版
66	講座 生活ストレスを考える 3. 家族生活とストレス	石原邦雄編	垣内出版
67	講座 生活ストレスを考える 4. 職場集団にみるストレス	坂本弘編	垣内出版
68	講座 生活ストレスを考える 5. 学校社会のストレス	安藤延男編	垣内出版
69	メラニーライン著作集1. 子どもの心的発達	責任編訳・西岡昌久・牛島定信著	誠信書房
70	メラニーライン著作集3. 愛、罰そして償い	責任編訳・西岡昌久・牛島定信著	誠信書房
71	メラニーライン著作集4. 妄想的・分裂的世界	責任編訳・小此木啓吾・岩崎徹他	誠信書房
72	メラニーライン著作集6. 児童分析の記録I	山上千鶴子訳	誠信書房
73	アルコール薬物依存	大原健士・田所作太郎編	金原出版株式会社
74	無意識の発見 上	アンリ・エレンベルガー著 木村敏・中井久夫編訳	弘文堂
75	無意識の発見 下	アンリ・エレンベルガー著 木村敏・中井久夫編訳	弘文堂
76	新しい子ども学 3巻 1育つ	小林登・小嶋謙四郎他著	海鳴社
77	新しい子ども学 3巻 2育てる	〃	〃
78	新しい子ども学 3巻 3子どもとは	〃	〃
79	アンナ・フロイド著作集 1 児童分析入門	岩村由美子・中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
80	アンナ・フロイド著作集 2 自我と防衛機制	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
81	アンナ・フロイド著作集 3 家庭なき幼児たち・上	中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
82	アンナ・フロイド著作集 4 家庭なき幼児たち・下	中沢たえ子訳	岩崎学術出版社
83	アンナ・フロイド著作集 5 児童分析の指針上	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
84	アンナ・フロイド著作集 6 児童分析の指針下	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
85	アンナ・フロイド著作集 7 ハムステッドにおける研究・上	牧田清志・阪本良男・児玉憲興訳	岩崎学術出版社
86	アンナ・フロイド著作集 8 ハムステッドにおける研究・下	牧田清志・阪本良男・児玉憲興訳	岩崎学術出版社
87	アンナ・フロイド著作集 9 児童期の正常と異常	黒丸正四郎・中野良平訳	岩崎学術出版社
88	アンナ・フロイド著作集 10 児童分析の訓練	佐藤紀子・岩崎徹也・辻律子訳	岩崎学術出版社
89	講座、精神の科学 2 パーソナリティ		岩波書店

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
90	異常心理学講座 4 巻 1 学派と方法	上居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
91	異常心理学講座 3 人間の生涯と心理	上居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
92	異常心理学講座 4 神経症と精神病 1	上居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
93	異常心理学講座 5 神経症と精神病 2	上居健郎・笠原嘉・宮本忠雄・責任編集	みすず書房
94	井村恒郎著作集 1 精神病理学研究	井村恒郎 著	みすず書房
95	井村恒郎著作集 2 脳病理学・神経症	〃	みすず書房
96	井村恒郎著作集 3 分裂病・家族の研究	〃	みすず書房
97	新しい精神医学	高橋良・壺弘 監修	ヘスコインターナショナル
98	老年の心理と精神医学	金子仁郎 著	金剛出版
99	叢書・精神の科学 1 巻精神の幾何学	安永 浩 著	岩波書店
100	叢書・精神の科学 2 巻シンファンの病い	小出浩之 著	岩波書店
101	叢書・精神の科学 4 治療の場からみた分裂病	坂本暢典 著	岩波書店
102	叢書・精神の科学 5 正気の発見	内沼幸雄 著	岩波書店
103	叢書・精神の科学 6 心身症と心身医学	成田善弘 著	岩波書店
104	叢書・精神の科学 7 意識障害の人間学	河合逸雄 著	岩波書店
105	叢書・精神の科学 8 境界事象と精神医学	鈴木 茂 著	岩波書店
106	叢書・精神の科学 10 精神と身体	遠藤みどり 著	岩波書店
107	叢書・精神の科学 11 脳と言語	野上芳美 著	岩波書店
108	叢書・精神の科学 12 貧困の精神病理	大平 健 著	岩波書店
109	叢書・精神の科学 13 「非行」が語る親子関係	佐々木譲・石附敦 著	岩波書店
110	井村恒郎・人と学問	懸田克躬 編	みすず書房
111	人間性心理学への道（現象学からの提言）	村上英治 編	誠信書房
112	生きること かかわること	村上英治 監修	名古屋大学出版会
113	人格の対象関係論（フェッバーン著）	山口泰司 訳	文化書房博文社
114	臨床的对象関係論（フェッバーン著）	山口泰司・原田千恵子 訳	文化書房博文社
115	性的例錯（メダルト・ボス著）	村上仁・吉田和夫 訳	みすず書房
116	性の逸脱（ストー著）	山口泰司 訳	理想社
117	子どもの治療相談①適応障害・学業不振・神経症	ウイニコット著・橋本雅雄 訳	岩崎学術出版社
118	子どもの治療相談②反社会的傾向・盗みと愛情剥奪	ウイニコット著・橋本雅雄 訳	岩崎学術出版社
119	摘画による心の診断	岩井 寛 著	日本文化科学社

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
120	家族療法 (ジェイ・ヘイリィ著)	佐藤悦子訳	川島書店
121	夫婦家族療法I (Dグリック D・Rケスラー著)	鈴木浩二訳	誠信書房
122	集団精神療法の理論と実際	池田由子著	医学書院
123	心理面接の技術	前田重治著	慶応通信
124	コミュニティ心理学	山本和郎著	東京大学出版会
125	日本の精神障害者	岡上和雄・大島巖・荒井元博編	ミネルウェア書房
126	日常性の精神医学 (ヴァン・デン・ベルグ著)	早坂泰次郎・矢崎好子訳	川島書店
127	表情病	阿部正著	誠信書房
128	現代精神医学の概念 (サリヴァン著)	中井久夫・山口隆訳	みすず書房
129	精神医学的面接 (サリヴァン著)	中井久夫・山口隆訳	みすず書房
130	発想の航跡	神田橋 條 治	岩崎学術出版社
131	身体心理学 (P・シルダー著)	稲永和豊監修	星和書店
132	岩波 心理学小辞典	宮城音弥編	岩波書店
133	精神病棟の20年	松本昭夫著	新潮社
134	精神障害・薄弱百問百答	児島美都子監修	中央法規出版
135	アメリカの精神医療	仙波恒雄監訳・解説	星和書店
136	新精神保健法	厚生省保健医療局精神保健課監修	中央法規出版
137	適正飲酒ガイドブック		アルコール健康医学協会
138	痴呆老人対策	痴呆性老人対策推進部事務局編	中央法規出版
139	ぼけ老人の家庭介護手引き		厚生環境問題研究会
140	だれでも精神科治療	小池清廉著	ルガール社
141	日本人の深層分析1 母親の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
142	日本人の深層分析2 父親の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
143	日本人の深層分析3 エロスの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
144	日本人の深層分析4 攻撃性の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
145	日本人の深層分析5 夢と象徴の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
146	日本人の深層分析6 創造性の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
147	日本人の深層分析7 病める心の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
148	日本人の深層分析9 子どもの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
149	日本人の深層分析10 青年期の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
150	日本人の深層分析11 老いとるもの深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
151	思春期の対象関係論	牛島定信	金剛出版
152	痴呆老人の理解とケア	室伏君士	金剛出版
153	薬物依存	加藤雄司	金剛出版
154	分裂病者の行動特性	昼田源四郎	金剛出版
155	老年期精神障害の臨床	室伏君士編	金剛出版
156	E.ミンコフスキー 生きられる時間 1	中江育生・清水誠 訳	みすず書房
157	E.ミンコフスキー 生きられる時間 2	中江育生・清水誠・大橋博司訳	みすず書房
158	E.ミンコフスキー 精神分裂病	村上仁 訳	みすず書房
159	異常心理学講座 第9巻	土居健郎・笠原晶・宮本忠雄・木村敏彦他編集	みすず書房
160	E.クレベリン〈精神医学〉2 躁うつ病とてんかん	西丸四方・西丸甫夫訳	みすず書房
161	精神科看護とデイ・ケア	加藤政子・松元信子訳	医学書院
162	精神科看護の展開	外間邦江・外口玉子訳	医学書院
163	精神科看護と福祉	加藤政子・松元信子訳	医学書院
164	病院精神医療の展開	監修 加藤伸勝	医学書院
165	PS.Powers,RC.Fernandez 神経性食欲不振症過食症の治療	監訳保崎秀夫・高木洲一郎	医学書院
166	R.K.コーニン編 ハンドブックグループワーク	馬場禮子 監訳	岩崎学術出版社
167	精神分析を語る	西園昌久	岩崎学術出版社
168	精神医学図書総覧	小林司 編	岩崎学術出版社
169	ウォン教授の集団精神療法セミナー グループリーダーのあり方	秋山剛 訳	日本集団精神療法学会第2回ウォン教授集団精神療法セミナー実行委員会発売:星和書店
170	ウォン教授の集団精神療法セミナー	山口隆・松原太郎 監修	日本集団精神療法学会発売:星和書店
171	精神医療における芸術療法	徳田良仁・式場聡	牧野出版
172	マルコム・レコーダー 裁かれる精神医学	秋元波留夫・大木善和	創造出版
173	D.W.ウィニコット 子どもと家庭	牛島定信 監訳	誠信書房
174	医心理学	原田憲一・小片寛・湯沢千尋・巽信夫	朝倉書店
175	心の病気と現代	秋元波留夫	東京大学出版会
176	精神障害者の社会復帰	寺谷隆子 編	中央法規出版
177	ストレス診療ハンドブック	河野友信・吾郷晋浩	メディカルサイエンス インターナショナル
178	生活と福祉 別冊事例集 アルコール依存症 および精神障害特集		全国社会福祉協議会

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
179	バトグラフィ双書3 宮沢賢治	福島章	金剛出版
180	バトグラフィ双書6 ドフトエフスキー	荻野恒一	〃
181	バトグラフィ双書8 ヘミングウェイ	伊藤高麗夫	〃
182	バトグラフィ双書9 志賀直哉	鹿野達男	〃
183	バトグラフィ双書10 川端康成	稲村博	〃
184	バトグラフィ双書12 高村光太郎	町沢静夫	〃
185	精神科MOOK 2 家族精神医学	編集企画 西園昌久	金原出版
186	〃 5 アルコール関連障害	〃 加藤正明	〃
187	〃 9 精神分裂病の治療と予後	〃 山下格	〃
188	〃 11 身体疾患と精神障害	〃 原田憲一	〃
189	〃 12 対人恐怖症	〃 高橋徹	〃
190	〃 13 躁うつ病の治療と予後	〃 更井啓介	〃
191	〃 14 青少年の社会病理	〃 藤原豪	〃
192	〃 15 精神療法の実際	〃 吉松和哉	〃
193	〃 16 自殺	〃 春原千秋	〃
194	〃 17 法と精神医療	〃 逸見武光	〃
195	〃 18 家庭と学校の精神衛生	〃 山田通夫	〃
196	〃 19 森田療法—理論と実際	〃 大原健士郎	〃
197	〃 20 精神科救急医療	〃 山崎敏雄	〃
198	〃 21 睡眠の病態	〃 菱川泰夫	〃
199	ヤスパース精神病理学研究	藤森英之 訳	みすず書房
200	アルコール依存症の精神病理	斎藤学	金剛出版
201	精神分析治療の進歩	西園昌久	〃
202	非行の病理と治療	石川義博	〃
203	家庭内暴力	若林慎一郎・本城秀次	〃
204	性的異常の臨床	高橋進・柏瀬宏隆 編	〃
205	分裂病と構造	小出浩之	〃
206	心理臨床家の目指すもの	台利夫・新田健一・長谷川孫一郎	〃
207	C.M アンダーソン・D.J レイス・G.E ハガティ 著 分裂病と家族上	鈴木浩二・鈴木和子 監訳	〃
208	C.M アンダーソン・D.J レイス・G.E ハガティ 著 分裂病と家族下	鈴木浩二・鈴木和子 監訳	〃

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
209	精神分裂治療の展開	西園昌久	金剛出版
210	DSM-Ⅲ-R 精神障害の分類と診断の手引き第2版	高橋三郎・花田耕一・藤縄昭	医学書院
211	内因性精神病	吉永五郎	医学書院
212	Wブランケンブルグ自明性の喪失	木村敏・岡本進・島弘嗣共訳	みすず書房
213	精神保健実践講座 ①精神保健の基礎理解	加藤正明監・吉川武彦・佐野光正編	中央法規出版
214	〃 ②精神保健と精神科医療	加藤正明監・蜂矢英彦・南雲与志郎編	〃
215	〃 ③精神保健とリハビリテーション活動	加藤正明監・蜂矢英彦・岡上和雄編	〃
216	〃 ④精神保健の社会資源	加藤正明監・村田信男・大江基編	〃
217	〃 ⑤地域精神保健活動の理解と実際	加藤正明監・村田信男・藤井克徳編	〃
218	〃 ⑥精神保健と家族問題	加藤正明監・滝沢武久・村田信男編	〃
219	〃 ⑦精神保健教育のあり方	加藤正明監・吉川武彦・佐野光正編	〃
220	〃 ⑧精神保健行政と生活保障	加藤正明監・見浦康文・滝沢武久編	〃
221	〃 ⑨精神保健の法制度と運用	加藤正明監・小松源助・林幸男編	〃
222	〃 ⑩精神保健関係資料集	加藤正明監・見浦康文・中村俊哉編	〃
223	精神保健法詳解	精神保健法規研究会 編集	〃
224	精神科デイケア	精研デイケア研究会編・代表柏木昭	岩崎学術出版社
225	日本人の深層分析12 現代社会の深層	馬場謙一・小川捷之他編	有斐閣
226	精神科MOOK 26 精神科における医療と福祉	編集企画 蜂谷英彦	金原出版
227	援助困難な老人へのアプローチ	根本博司 編集	中央法規
228	分裂病を生きる	安斎三郎 編著	日本評論社
229	臨床ケースワーク	武田建 荒川義子	川島書店
230	臨床描画研究 I 描画テストの読み方	家族画研究会編	金剛出版
231	臨床描画研究 II 家族画による診断と治療	〃	金剛出版
232	臨床描画研究 III 思春期、青年期の病理と描画	〃	金剛出版
233	臨床描画研究 IV 描画の臨床的活用	〃	金剛出版
234	臨床描画研究 V イメージと臨床	〃	金剛出版
235	臨床描画研究Annex 1 家族イメージとその投影	〃	金剛出版
236	〃 2 私の表現病理学	〃	金剛出版
237	〃 3 描画を読むための理論背景	〃	金剛出版
238	治療構造論	岩崎徹也	岩崎学術出版社

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
239	精神障害者福祉	田村健二、坪上宏、浜田晋、岡上和雄	相川書房
240	過食の病理と治療	下坂幸三 編	金剛出版
241	精神医学は対人関係論である H. S. ナリヴァン著	中井久夫、宮崎隆吉、高木敬三	みすず書房
242	分裂病と家族の感情表出 J. レフ C. ヴォーン著	三野善夫、牛島定信 訳	金剛出版
243	医療の人類学	波平恵美子 監訳	海鳴社
244	思春期やせ症の家族	福田俊一 監訳	星和書店
245	家族療法の理論と実際 I	大原健士郎、石川元	星和書店
246	家族療法の理論と実際 II	大原健士郎、石川元	星和書店
247	戦略的心理療法の展開 ジョンヘイリー著	高石昇、横田恵子 訳	星和書店
248	「うつ」を生かす	大野 裕	星和書店
249	青年期精神衛生事例集	清水将之、北村陽英	星和書店
250	感情病および精神分裂病面接基準	保崎秀雄	星和書店
251	精神科のロングターム、ケア	山田義夫、小口徹	協同医書出版社
252	家族療法ケース研究2 登校拒否	鈴木浩二	金剛出版
253	方法としての面接	上居健郎	医学書院
254	自我同一性研究の展望(青年期)	鎌幹八郎、山本力、宮下一博	ナカニシヤ
255	精神障害者の職業リハビリテーション	岡上和男、松為信男、野中猛	中央法規出版
256	自立のための援助論	久保紘章	川島書店
257	患者家族会のつくり方と進め方	外口玉子	川島書店
258	セルフ・ヘルプ・グループの理論と実際	久保紘章	川島書店
259	家族変容の技法をまなぶ GR. バターソン	大淵憲一、春木豊	川島書店
260	精神を病むということ	秋元波留夫、上田敏	医学書院
261	増補 精神発達と精神病理	北田隆之助、馬場謙一、下坂幸三	金剛出版
262	性の臨床	河野友信	医学書院
263	中年期の精神医学	飯田 眞	医学書院
264	医学モデルを超えて E. G. ミシュラー著	尾崎新、三宅由子、丸井英二	星和書店
265	老人期痴呆の医療と看護	室伏君士	金剛出版
266	精神医学4 強迫神経症	遠藤みどり、稲浪正充	みすず書房
267	青年期 美と苦悩	大東祥孝、松本雅彦 新宮一成、山中康裕	金剛出版
268	思春期精神保健相談		財団法人日本公衆衛生協会

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
269	人と場をつなぐケア	外 口 玉 子	医 学 書 院
270	精神分裂病研究の進歩	藤 縄 昭	星 和 書 店
271	「家族」と治療する	石 川 元	未 来 社
272	初期分裂病	中 安 信 夫	星 和 書 店
273	自己愛と境界例 J. F. マスターソン著	富山幸佑、尾崎新 訳	星 和 書 店
274	入院集団精神療法	山口隆、小谷英文	へるす出版
275	精神科コンサルテーションの技術 L. S. グリックマン著	荒木志朗、柴田史朗、西浦研志 訳	岩崎学術出版社
276	最近精神衛生（その理論と応用）	高 木 四 郎	慶 応 通 信
277	新中間管理職のメンタルヘルス	佐々木 時 雄	弘 文 堂
278	新版 精神衛生	小杉正太郎 編著	川 島 書 店
279	職場のメンタルヘルス	加藤正明、精神衛生普及会 編	保 健 同 人 社
280	メンタルヘルス	加 藤 正 明	創 元 社
281	ライフサイクル精神医学	西 園 昌 久	医 学 書 院
282	コーフト自己心理学セミナー 1 ミリアム・エルソン編	伊 藤 洸 監訳	金 剛 出 発
283	遊びリテーション	竹内孝仁、稲川利光 三好春樹、村上暲紀	医 学 書 院
284	青年期の精神科臨床	清 水 将 之	金 剛 出 版
285	プロイラー精神医学総論	切 替 辰 哉	中 央 洋 書 出 版
286	生涯発達学 R. M. ラーナー N. A. ブッシュ ロスナガール編	上 田 礼 子 訳	岩崎学術出版
287	電話相談の基礎と実際	長谷川浩一 編集 横浜いのちの電話 調査研究部 編	川 島 書 店
288	地図は現地ではない	中 沢 正 夫	萌 文 社
289	岩波講座 子どもの発達と教育4 幼年期発達段階と教育1		岩 波 書 店
290	精神医学の臨床研究 サリヴァン	中井久夫、山口直彦、松川周吾 訳	み す ず 書 房
291	治療のダイナミックス	轟 俊 一、渡 辺 登	岩 波 書 店
292	心理療法の諸原則 上 I. B. ワイナー著	秋谷たつ子、小川俊樹、中村伸一	星 和 書 店
293	心理療法の諸原則 下 I. B. ワイナー著	秋谷たつ子、小川俊樹、中村伸一	星 和 書 店
294	錯覚と脱錯覚	北 山 修	岩崎学術出版
295	サイコセラピー練習帳	丸 田 俊 彦	岩崎学術出版
296	眠らぬダイヤル（いのちの電話）	稲村博、林義子、斉藤友紀雄	新 曜 社
297	分裂病の精神病理 16	上 居 健 郎	東京大学出版社
298	森田式精神健康法	長 谷 川 洋 三	三 笠 書 房



番号	書名	著者又は訳者	出版社名
299	一般医のための森田療法	樋口正元	太陽出版
300	森田療法のすすめ	高良武久	白揚社
301	続日本 収容所列島の60年	竹村堅次	近代文芸社
302	境界例の臨床	牛島定信 著	金剛出版
303	グループサイコセラピー	川室優 訳	金剛出版
304	無意識1 無意識へのプロレゴメナ	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
305	無意識2 無意識と言語	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
306	無意識3 神経学と無意識	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
307	無意識4 無意識と精神医学的諸問題	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
308	無意識5 無意識の社会学、哲学への影響	アンリ・エー編、大橋博司 監訳	金剛出版
309	ある神経病者の回想録 デニエル、パウル シュレーパー著	渡辺哲夫 訳	筑摩書房
310	東洋の狂気誌	小田 晋	思索社
311	分裂病と他者	木村 敏	弘文堂
312	精神分析と仏教	武田 専	新潮選書
313	死に急ぐ子供たち シンシア、R、フェファー	高橋祥友 訳	中央洋書出版部
314	引き裂かれた子供たち	池田由子	弘文堂
315	妻が危ない	池田由子	〃
316	心理療法論考	河合隼雄	新曜社
317	老いのソウロロギー（魂学）	山中康裕	有斐閣
318	陽性陰性症状評価尺度	山田、増井、菊本 訳	星和書店
319	老人虐待	金子善彦	星和書店
320	正常な「老い」と異常な「老い」	清田一民	星和書店
321	精神分裂病治療のストラテジー	浅井昌弘、八木剛平	国際医書出版
322	十代の四季	上 田 基	ミネルヴァ書房
323	児童精神保健	島田照三 森田啓吾 横山 桂 子 著	ミネルヴァ書房
324	別冊発達⑨乳幼児精神医学への招待	小此木啓吾 渡辺久子編	ミネルヴァ書房
325	老人福祉とは何か	一番ヶ瀬康子 十古林佐知子著	
326	高齢化社会と介護福祉	一番ヶ瀬康子 仲村優一 北川隆吉編	ミネルヴァ書房
327	現代人の精神異常	福田哲雄 著	ミネルヴァ書房
328	ゆれうごく家族	金田利子 杉浦	ミネルヴァ書房

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
329	ストレスの心理学	リチャード・S・ラザルス スーザン・フォルクマン著	実務教育出版
330	逆転移1	ハロルド・F・サルーズ 杉本雅彦他訳	みすず書房
331	外来精神医学から	等原嘉	みすず書房
332	家族療法ケース研究④	牧原浩著	金剛出版
333	家族に学ぶ家庭療法	鈴木浩二監修	金剛出版
334	非行の臨床	石川義博著	金剛出版
335	臨床精神医学講義	日大精神神経科	星和書店
336	自己愛と境界例	ジェームス・F・マスターソン著 富山幸佑 尾崎新著	星和書店
337	小児精神医学	新井清二郎 長畑正道他著	中山書店
338	老年期の性	大工原秀子	ミネルヴァ書房
339	性ぬきに老後は語れない	大工原秀子	ミネルヴァ書房
340	精神科リハビリテーション	J・K・ウイング B・モリス編 高木隆郎監訳	岩崎学術出版社
341	異常心理学講座⑥	土居健郎 等原嘉 宮本忠雄 木村敏責任編集	みすず書房
342	中井久夫著作集 1 分裂病	中井久夫	岩崎学術出版社
343	“ 2 治療	“	“
344	“ 3 社会・文化	“	“
345	“ 4 治療と治療関係	“	“
346	“ 5 病者と社会	“	“
347	“ 6 個人とその家族	“	“
348	“ 別巻1 中井久夫共著論文集	山中康裕編	“
349	“ 別巻2 H・NAKAI風景構成法	山口直彦編	“
350	コンサルテーション・リエゾンの実際	荒木富士夫編著	岩崎学術出版社
351	職場と心の健康 ①企業と産業精神衛生	財団法人精神分析学振興財団編 岩崎徹也 小比木啓吾 武田専監修	東海大学出版会
352	“ ②企業と中高年	“	“
353	“ ③企業と家族	“	“
354	“ ④企業と転勤	“	“
355	“ ⑤個人と性格	“	“
356	安永治著作集 1 ファントム空間論	安永治	金剛出版
357	“ 2 ファントム空間論の発展	“	“
358	“ 3 方法論と臨床概念	“	“

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
359	精神科リハビリテーションの実際 1	F・N・ワッツ D・H・ベネット編 福島裕監訳	岩崎学術出版社
360	精神科リハビリテーションの実際 2	F・N・ワッツ D・H・ベネット編 福島裕監訳	岩崎学術出版社
361	精神科難治療例 私の治療	融道男編	中外医学社
362	これからの精神保健・精神医療	谷中輝雄編	やどかり出版
363	十亀史郎講演集1	十亀記念事業委員会	伊勢出版
364	地図は現地ではない	中沢正夫	明文社
365	心理劇とその世界	増野肇	金剛出版
366	サイコドラマのすすめ方	増野肇	金剛出版
367	異常心理学講座 第十巻 文化・社会の病理	土居健郎他	みすず書房
368	気分変調症	S・W・バートン II・S・アキスアル	金剛出版
369	幻覚・妄想の臨床	濱中淑彦 河合逸雄 他編集	医学書院
370	子どもの心の臨床	中沢たえ子 著	岩崎学術出版社
371	シリーズ現代の病4 職場の病	河野友信 編集	医学書院
372	精神保健と看護のための100か条	中沢正夫	明文社
373	精神保健「家族教室」	全国精神保健相談者会 田中英樹 他	明文社
374	精神保健マニュアル	吉川武彦	南山堂
375	精神分裂病研究の進歩 1991 Vo2 No1	精神分裂病研究編集委員会	星和書店
376	“ 1992 Vo3 No1	“	“
377	臨床精神医学論集	土居健郎教授還暦記念論文集刊行会	
378	集団精神療法の進め方	山口隆 中川賢幸 編	星和書店
379	臨床心理学体系 ①臨床心理学の科学的基礎	河合逸雄 福島章 他編集	金子書房
380	“ ②パーソナリティ	小川捷之 託摩武俊 他編集	“
381	“ ③ライフサイクル	小川捷之 斉藤久美子 他編集	“
382	地域精神保健活動の実際	吉川武彦 編	金剛出版
383	安永浩著作集 症状論と精神療法	安永浩	“
384	精神保健福祉の展開	岡上和雄 編	相川書房
385	臨床心理学大系4 家族と社会	岡堂哲雄、鎌幹八郎 馬場禮子 編集	金子書房
386	“ 5 人格の理解Ⅰ	安香宏、田中富士夫 福島章 編集	“
387	“ 6 “ Ⅱ	村瀬孝雄、大塚義孝 安香宏 編集	“
388	“ 7 心理療法Ⅰ	小此木啓吾、成瀬悟策 福島章 編集	“

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
389	臨床心理学大系8 心理療法②	上里一郎、鎌幹八郎編集 前田重治	金子書房
390	” 9 ” ③	河合隼雄、水島忠一編 村瀬孝雄	”
391	” 10 適応障害の心理臨床	安井健三、小川捷之集 安香、宏編	”
392	” 11 精神障害の心理臨床	福島章、村瀬孝雄編 山中康裕	”
393	シリーズ精神科症例集① 精神分裂病I - 精神病理 -	木村敏 責任編集	中山書店
394	分裂病の精神病理と治療②	湯浅修一 編	星和書店
395	” ③	中井久夫	”
396	リバーマン実践的精神科リハビリテーション	ポール・リバーマン 安西信雄・池淵恵美 監訳	創造出版
397	メンタルヘルスシリーズ サラリーマン・アパシー	延島信也 編	同朋舎
398	” 働く女性のメンタルヘルス	馬場房子 編	”
399	転換期に立つ精神病院	ゆうゆ編集部・氏家憲章	明文社
400	狂気の社会史	ロイ・ポーター著 日羅公和訳	法政大学出版局
401	こころの病いと家族のこころ	滝沢武久	中央法規出版
402	老年性精神疾患	エミール・クレベリン 著 伊達徹 訳	みすず書房
403	河合隼雄著作集 5 昔話の世界	河合隼雄	岩波書店
404	” 6 子どもの宇宙	”	”
405	” 13 生きることと死ぬこと	”	”
406	地域精神保健実践シリーズ② 保健デイケア	全国精神保健相談員会編 田中英樹 ほか著	明文社
407	慢性疾患と家族	フロマワルシュ/キャロルM・アングーソン編 野中猛・白石弘巳 監訳	金剛出版
408	精神科ディケアマニュアル	宮田 勝	”
409	脳障害者の心理療法	小山充道	北海道大学図書刊行会
410	憑作と精神病	高畑直彦、七田博文、内潟一郎	”
411	児童虐待(危機介入編)	斉藤 学	金剛出版
412	これからの地域保健	厚生省健康政策局計画課監修	中央法規出版
413	子どもの虐待防止	児童虐待防止制度研究会編	朱鷺書房
414	老いの心と臨床	竹中 星 郎	診療新社
415	Alcoholism : Origins and Outcome	R.M.Rose・J.E.Barrett	RAVEN
416	Handbook of Social Psychiatry	A.S.Henderson・G.Burrows	ELSEVIER
417	Mental Health in the Elderly	H.Häfner・G.Moschel N.Sartorius	Springer-Verlag
418	Stress testing Edition 3	F.A.Davis.	M.H.ELLESTAD

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
419	Hysteria and Related Mental Disorders	D.W.Abse	WRLGHT
420	Social Support, Life Events, and Depression	N.Lin・A.Dean・Alfred Dean W.N.Ensel	ACADEMIC PRESS
421	私の分裂病観	中 沢 洋 一	金 剛 出 版
422	地域精神保健実践マニュアル	吉 川 武 彦 竹 島 正	金 剛 出 版
423	精神分裂病の心理社会治療	藤 縄 昭 裕 編 高 井 昭 裕	金 剛 出 版
424	力動指向的芸術療法	マーガレット・ナウムブルグ著 中井久夫監修、内藤あかね訳	金 剛 出 版
425	職場のメンタルヘルス	加 藤 正 明 編 精神衛生普及会	保 健 同 人 社
426	1995 長寿社会行政の展望	政 府 関 係 庁 省	労働行政資料調査会
427	精神分裂病者の責任能力	西 山 詮	振興医学出版社
428	精神医学を築いた人びと上・下	松 下 正 明	ワールドプランニング
429	病いの語り	アーサー・クライマン	誠 信 書 房
430	災害ストレスと心のケア	荒木 憲一、川崎ナヲミ 長岡 興樹、中根 允文	医 療 薬 出 版
431	逆転移 1, 2, 3	ハロルド・F・サールズ	み す ず 書 房
432	精神障害者の地域福祉	日本社会事業大学をかこむ地域連絡会 全国精神障害者家族会連合会	相 川 書 房
433	誰にもわかる分裂病とそのケア	ジョン・F・ソートン メアリーV、シーマン 編者	中 央 法 規
434	分裂病の精神病理と治療 1～5	吉松和也、湯浅修一、中井久夫 飯田 眞、水田俊彦	星 和 書 店
435	分裂病症状をめぐって	村 上 靖 彦	星 和 書 店
436	続 精神医学を築いた人びと上・下	松 下 正 明	ワールドプランニング
437	ケースマネジメント入門	デイビットP・マクスリ著	中 央 法 規
438	精神障害者地域生活支援センターの実際	全国精神障害者社会復帰施設協会	中 央 法 規
439	心的外傷と回復	ジュディス・L・ハーマン	み す ず 書 房
440	精神保健リハビリテーション	C. ヒューム、I. プレン	岩 崎 学 術 出 版
441	セルフヘルプ・グループ	アルフレッド・カッツ	岩 崎 学 術 出 版
442	行動療法 2	山 上 敏 子	岩 崎 学 術 出 版
443	虐待を受けた子どものプレイセラピー	ギ ル	誠 信 書 房
444	子どもと家族への援助	村 瀬 代 子	金 剛 出 版
445	分裂病の精神病理と治療 8	中 安 信 夫	星 和 書 店
446	内観療法	川 原 隆 造	新 興 医 学 出 版
447	薬物依存	加 藤 伸 勝	新 興 医 学 出 版
448	ストレス教室	山 本 晴 義	新 興 医 学 出 版

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
449	依存症-35人の物語	なだいなだ	中央法規出版
450	DSM-IV 精神疾患の分類と診断の手引き	高橋三郎、大野 裕、柴俊幸訳	医学書院
451	ICD-10 精神および行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン	融 道男、中根允文、小見山次監訳	医学書院
452	精神分裂病 臨床と病理 1	松本雅彦 編	医学書院
453	治療薬マニュアル	高久史磨、鴨下重彦監修	医学書院
454	精神医学外伝	クリスティアン・ミュラー著	星和書店
455	精神医学百年史	岡 不二太郎 訳編	創造出版
456	これからの精神医療と福祉		
457	精神科リハビリテーション実践ガイド	H・Y・エクスヴィ A・M・コニング 著	星和書店
458	芸術療法 全2巻	中井久夫・山中康裕他監修	岩崎学術出版社
459	トラウマの臨床心理学	西 澤 哲	金剛出版
460	精神医学レビュー 9 思春期の精神障害-今日の問題-	西園昌久 編集	ライフ・サイエンス
461	" 11 ヒポコンドリー(心気)	高橋 徹 編集	"
462	" 12 精神分裂病の再発	太田龍朗 編集	"
463	" 14 OCD	成田善弘 編集	"
464	" 15 精神分裂病者のリハビリテーション	蜂矢英彦 編集	"
465	" 18 精神科治療における家族	下坂幸三 編集	"
466	" 24 精神障害の疫学	大塚俊男 編集	"
467	" 30 精神疾患の一次予防	岡崎祐上 編集	"
468	" 別巻 21世紀に向けて精神分裂病を考える	融道男・大森健一 編集	"
469	精神保健福祉士養成セミナー 第1巻	精神保健福祉士養成セミナー編集委員会	へるす出版
470	" 第2巻	"	"
471	" 第3巻	"	"
472	" 第4巻	"	"
473	" 第5巻	"	"
474	" 第6巻	"	"
475	" 第7巻	"	"
476	" 第8巻	"	"
477	分裂病の薬がわかる本	八木剛平 著	全家連
478	精神病治療の開発思想史	八木剛平 著	星和書店

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
479	比較精神医学	内沼幸雄 他訳	星和書店
480	クオリティオブライフ評価尺度	宮田量治 他訳	星和書店
481	分裂病のファミリーワーク	三野善央 他訳	星和書店
482	地域診断のすすめ方	水嶋春朔 著	医学書院
483	健康福祉の活動モデル	新井宏明 著	医学書院
484	健康の正策科学	新井宏明 他編	医学書院
485	地域づくり型保健活動のすすめ	岩永俊博 著	医学書院
486	母子と家族への援助	吉田敬子 著	金剛出版
487	講座心理療法 第1巻	河合隼雄 著	岩波書店
488	“ 第2巻	“	“
489	“ 第3巻	“	“
490	“ 第4巻	“	“
491	“ 第7巻	“	“
492	「けーたい・ネット」人間の精神分析	小此木啓吾 著	飛鳥新社
493	我が国の精神保健福祉 H12	精神保健福祉研究会	厚健出版
494	実践職場のメンタルヘルス	高野良英 著	岩崎学術出版
495	声と身体の語らい	豊永武盛 著	金剛出版
496	文化精神医学序説	酒井明夫 他編	金剛出版
497	多重人格性障害	安克昌 他訳	岩崎学術出版
498	精神保健福祉関係法令通知集	精神保健福祉研究会	ぎょうせい
499	精神障害と社会復帰のリハビリテーション		
500	全国社会資源名簿 1999年版	精神障害者社会復帰促進センター	全家連
501	モノグラフ№23医療機関における家族支援プログラム	全家連保健福祉研究所	“
502	モノグラフ№26全国統計から見た日本の精神障害者の現状	“	“
503	モノグラフ№27地域生活本人の社会参加等に対する意識と実態98	“	“
504	モノグラフ№28専門職による家族会支援の実態と今後の課題	“	“

〈定期刊行物〉

精神医学	医学書院
日本社会精神医学会	星和書店
アルコール医療研究	〃
集団精神療法	日本集団精神療法学会
ソーシャルワーク研究	相川書房
季刊精神療法	金剛出版
The American Journal of Psychiatry	Official Journal of the American Psychiatric Association
児童・青年精神医学とその近接領域	日本児童青年精神医学会
老年精神医学雑誌	ワールドプランニング
心理学評論 (Vol32 No1~4, Vol33 No1~4)	心理学評論刊行会
心理臨床	星和書店
日本精神病院協会雑誌	日本精神病院協会
臨床精神医学	国際医書出版
精神障害と社会復帰	やどかり出版
公衆衛生	医学書院
季刊ゆうゆう	萌文社
週刊保健衛生ニュース	社会保険実務研究所
季刊職リハネットワーク	日本障害者雇用促進協会
JDジャーナル	日本障害者リハビリテーション協会
ぜんかれん	全国精神障害者家族会連合会
アディクションと家族 17巻 1号・2号・3号・4号	全国精神障害者家族会連合会
季刊「REVIEW」 32号・33号・34号・35号	財団法人全国精神障害者家族会連合会

〈ビデオテープ〉

マイクロカウンセリング I 基本的かかわり技法	前編
〃 II 〃	後編
老人ボケを防ぐには	
社会人としての言葉使いの基本	
作業療法 生活を拓く治療と援助	
老人と飲酒	
アルコールと循環器	
肝臓とアルコール代謝	
あと一杯が飲めるか	



与越市つくしの里の実践から

地域ぐるみでおこなわれている社会復帰活動を紹介する

こころの病をかかえて ― 精神障害者は今

病院を出て街で働きたい 報道特集 (1987年)

君は空の青さを知っているか ― 精神障害者が地域で生きていくために

今ここに生きる ― 精神障害者とともに

災害と心のケアハンドブック

ひとりぼっちをなくそう ― 精神障害者本人の会

そよ風はどこにでも ～地域精神保健の実際～

第一巻：いつでも どこでも だれにでも

第二巻：くらす はたらく つどう

家族のための分裂病講座

正しい知識は回復への道

ゆっくり治療し、再発を防ごう

知っておきたい薬の知識

あちこたねえ

精神障害者の地域生活支援

ケースの心をとらえる面接

第1巻：面接の基本

第2巻：面接技術の向上をめざして

未成年者にアルコールなんかいらぬ

老化と飲酒

おかえり

ひらく かける つなぐ ～精神保健ボランティア～

第1巻：いっしょにいこうよ

第2巻：スタンバイミー

SST の理論の役割

SST の基本的技術

SST の実際

リラクゼーションビデオ「心のケアシリーズ」3本セット

体感振動のための音楽集 GES-11998～12002

ビデオ「精神保健福祉啓発劇」

〈精神保衛啓発用パネル〉

I こころの健康づくりシリーズ（7枚）

こころの健康とは

こころの問題はどこへ相談すればいいの？

こころの病気にかかる人はどれくらい？

こころの健康づくり

こころとからだ

生活環境とストレス

ライフサイクルと心の病

II 社会復帰シリーズ（7枚）

社会復帰のための4要素

共同作業所とは

ディケアとは

家族会活動

共に生きる社会

社会復帰のための社会資源－1. 制度－

” －2. 施設と活動－

III (ライフサイクル) 思春期シリーズ（5枚）

思春期のこころ

思春期のからだ

親ばなれ

子ばなれ

思春期の心の病のサイン

IV (ライフサイクル) 老年期シリーズ（10枚）

老年期の心と体の特徴

老年期の心の病（精神障害）

痴呆とは①

痴呆とは②

仮性痴呆

痴呆の予防

痴呆の介護①

痴呆の介護②

痴呆はどうして起こる

健やかなる老後

〈寄贈本〉

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
1	シンナー乱用の治療と回復	小沼杏坪 著	㈱ヘルスワーク協会
2	ドラッグ世代	水谷 修	太陽企画出版
3	お酒ってなんだろう	今成知美	岩崎書店
4	タバコってなんだろう	小沢杏子	岩崎書店
5	ストップ・ザ「たばこ・酒・薬物乱用」	有田幸男 編著	東峰書房
6	依存症（35人の物語）	なだいなだ・古岡隆・徳永雅子 編	中央法規
7	よくわかる覚せい剤問題一問一答	関 紳一 監修	合同出版
8	中高生の薬物汚染	水谷・原田・関・古岡・近藤・森野他著	健康双書
9	薬物から家族を守る	小森 榮	三一書房

番号	書名	著者又は訳者	出版社名
10	さらば、哀しみのドラッグ	水谷 修	高文研
11	薬物依存症とは何か	東京ダルク編集委員会編	東京ダルク
12	親と教師のための覚せい剤問題入門	子どもと教育・文化を守る 埼玉県民会議 編	合同出版
13	援助者のためのアルコール・薬物依存症 Q&A	吉岡 隆 編	中央法規
14	ドラッグ（薬物）ってなんだろう	水澤 都加佐	岩崎書店
15	薬物乱用と家族	斉藤 学 著	南NCスクール協会
16	依存性薬物シリーズ1 ストップ ドリンク	丸山 勝也 監修	日本教育新聞社
17	” 2 シャットアウト スモキング	浅野 牧 茂 監修	”
18	” 3 ドン・ドゥ ドラッグ	小沼杏坪・小田品彦・原田幸男 監修	”
19	青少年のための自殺予防マニュアル	高橋 祥友 著	金剛出版
20	ドラッグ社会への挑戦	小森 榮 著	丸善ライブラリー

---

平成12年度版 こころの健康センター所報

平成13年12月 発行

三重県こころの健康センター  
(精神保健福祉センター)

〒514-1101 久居市明神町2501-1  
三重県久居庁舎内  
電話 059-255-2151

---